

東京市神田市場

各國青果委託販賣

武金號

# 問屋 栗本金八商店

生促蔬松玉馬  
栗成菜茸葱薯  
鈴

營業所  
輸出部

神田區連雀町十二番地  
神田區雉子町十三番地  
電話穴手六二三四番  
園電  
振替東京一一三六六番  
電零(ムキン)又ハ(ム)

東京市神田區多町二丁目八番地

各縣農會指定問屋

# 松久商店

各國蔬菜  
果實  
臺灣芭蕉實  
委託問屋

自宅神田區雉子町卅番地  
電話神田二九五八番  
電信略號(キウ)

各府縣農會幹旋所指定問屋

東京神田市場

各國果物問屋



印

萬高商店

黑川高吉

東京市神田區佐柄木町拾壹番地

電話神田五四七一番

振替東京(二三九〇〇番)

電信零號(イリ〇)

道縣農會幹旋所指定

東京市神田市場(佐柄木町拾壹番地)

青果物土物委托問屋

島要商店

岡本要藏

電話神田一九二二番

振替東京六五二六一番

電零(シマヨ)又ハ(ヨ)

各縣農會幹旋所指定

玉 葱  
馬 鈴 薯  
蔬 菜  
果 實  
問 屋

東京市神田市場

羽 印 萬 勝 商 店

山本勝之助

電話 大手三百四拾番  
電信 畧號 (マンカツ)

各縣農會幹旋所指定

各 國 菜 實 託  
蔬 菜 實 託  
果 實 實 託  
問 屋

東京市神田市場

信 猪 商 店

小林猪之松

電話 (自四九七〇 特設 七七番)  
大手 至四九七六 多町  
電信 畧號 (シナイ) 又 (シナ)  
振替 口座 東京 四七八三二番

各縣農會指定

東京神田市場佐柄木町

內外果實蔬菜委托問屋

今松房商店

高井久雄

電話神田一九五八番  
電信零號(フサ)

各全國園藝高級蔬菜委託販賣

全農會幹旋指定問屋

東京市神田青物市場

角豐商店

印前川勘右衛門

東京市神田區多町二丁目  
電話 欠手 六二二五番  
電信零號 (トヨ) 又ハ (カ)  
振替東京二二二四六番

神田市場果物問屋

竹屋號

各府縣  
農會指定  
分藤岡卓兒

東京市神田區多町二ノ二一  
電話 大手七〇四六番

東京市神田市場青物果物問屋

角良商店

舍古屋良平

營業所 東京市神田區多町二ノ八  
電話 大手七二七〇番  
住宅 特多町三ノ八番  
東京市神田區佐柄木町一七

米國産レモン、オレンジ直輸入元

福源商店

鈴木正之助

東京市神田區多町二丁目八番地  
電話 大手(自四九七〇)特設多町  
振替口座東京六九六九一六番

内外蔬菜果物  
委託問屋

三長商店

青物果物問屋  
鈴木長藏

促成蔬菜果實類  
玉葱馬鈴薯類

東京市橋本青物市場  
電話 銀座五三六番  
振替口座東京一三三六四

全國縣農會幹旋所指定

和洋果實青物  
各農產園藝品  
委託販賣問屋

東京市神田青果市場  
佐柄木町十七番地

# 加印三兼商店

店主 漆原兼松

紀州柑橘指定

電話神田二二二〇番  
振替東京二三八二五番  
電略(力ネ)又ハ(力)

各青果物問屋

東京市神田市場

萬直商店

# 黒川直吉

電話神田三八三番  
振替東京二二三〇番

各果促園蔬  
國實成藝菜

問屋

# 半

印

# 鈴木喜代三郎

東京市京橋市場  
三喜代商店

振替口座東京四二二一九番  
電信略號(キ)又ハ(キヨ)

薯鈴馬葱玉

青物 果實 乾物 海藻

問屋 安商店

東京市京橋青物市場

保田安次郎

電話銀座六九一七番  
振替東京四三五〇一番  
電略(フヤ)又ハ(フ)

遠卯號

馬鈴薯玉葱 問屋 卯之助

東京市京橋區青物市場  
電話京橋三二一九番  
電畧(エンウ)又ハ(ウ)

東京市京橋青物市場

青果實委託販賣問屋

印 三周商店

藤浦富太郎  
電話京橋二二三〇五番  
振替口座二三一六一番

御取引は親切を旨とします

内外果實 問屋 鈴木善作商店

東京市京橋青物市場  
電話京橋三一七六番

實 誠 卜 強 勉

舊濱町市場時代ニハ特別ノ御引立ヲ蒙  
リ奉深謝候尙倍舊ノ御引立ノ程願上候



各 國 促 成 野 菜 果 物 甘 藷 土 物 漬 物  
委 托 販 賣 問 屋

東 京 市 江 東 市 場

龜 鐵 商 店

店 主 池 田 宇 之 助

事 務 所 本 所 區 橫 綱 町 二 丁 目 七 番 地

自 宅 日 本 橋 區 濱 町 一 番 一 振 替 東 京 三 三 五 八 五 番  
電 話 浪 花 五 九 〇 一 番 電 略 (カメヤ) 又 (カメ)

各 國 蔬 菜 登 録  
果 物 土 物  
委 托 問 屋 商 標

令 方 小 沼 和 十 郎

東 京 市 江 東 市 場  
万 和 商 店

自 宅 本 所 區 橫 綱 町 二 丁 目 一 八 江 東 市 場 際  
振 替 口 座 東 京 三 四 六 九 三 番  
電 話 墨 田 三 〇 八 七 番  
發 電 略 號 (マンワ) 又 (ハワ)



送運の卵鶏物果菜蔬  
るせ練熟も最に扱取



農部道合縣 東京販賣幹旋所指定

鐵道省公認運送取扱人

# 兩國運送店

本 店 東京市兩國橋停車場前  
電話 三三三三  
墨田 八四二二一  
電話 三九七六  
支 店 東京市錦糸町停車場前  
電話 四八〇五  
墨田 二八〇五  
電話 八〇五〇  
支 店 千葉縣勝浦停車場前  
電話 勝浦三〇四  
千葉縣銚子町新生通  
電話 銚子二五六番

東京市日本橋區堀江町  
電話 浪花四三〇九番  
出張所  
電話 銚子二五六番

資本金壹千萬圓

東京秋葉原驛前

## 神田支店

電話 淺草 (特長六三〇九) 番  
五六七三番



# 國際運送株式會社

設備完全、取扱親切

東京兩國橋驛前

## 兩國支店

電話 墨田 (三〇六九) 番  
四九番

安心ノ出來ル運送店

# 東京市汐留停車場前

鐵道省  
公認



株式會社

## 京濱組合運送部

中央計算 加盟店 電話銀座 (最三七七五番)  
振替口座東京一四三六七番

# 銘木と椽甲板

### ▲天井板

(米杉。内地杉。其ノ他各種  
秋田杉。榎。裏板用、天井用、腰板用)

### ▲床廻雜作板

(床柱類。床板。棚板。欄間  
銘竹。名栗。ヘギ板。丸太類)

### ▲ベニヤ板

(檜。樺。櫻。楓。其ノ他  
内地銘産杉張天井板)

### ▲椽甲板

(米松(四吋。六吋。椽目。板目  
ナラ。ラワン。チーク其ノ他(本實附フローリング))

右精々勉強可仕候間多少ニ不拘御用命懇願仕候

東京市深川区數矢町十九番地



## 吉川材木店

電話墨田四八一〇番  
墨田(四二二七特設二番)  
四二二九

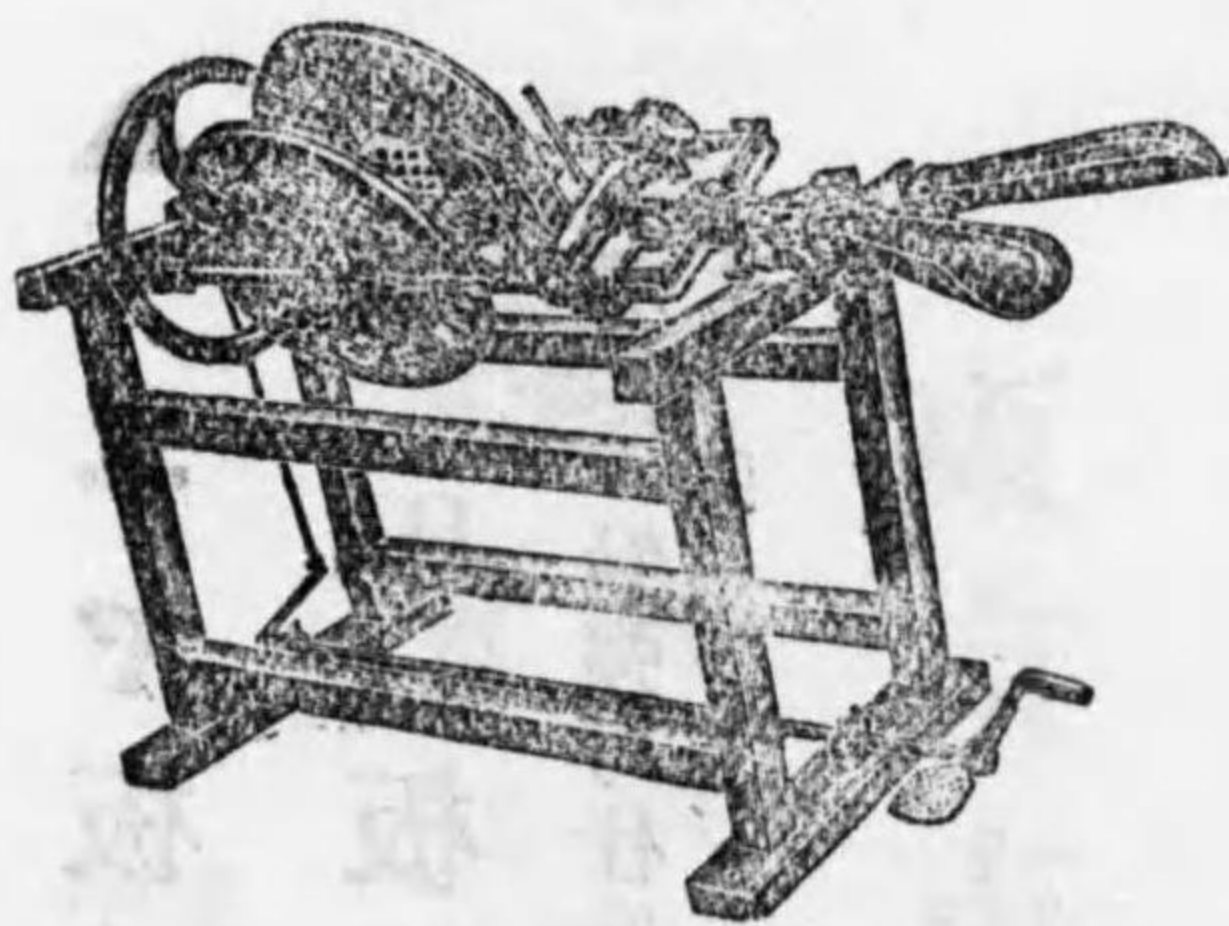
○斯界に冠絶す

▽本庄式△

改良又改良  
拾數年の結晶

### 製繩機

商標 登錄



本庄商會

東京市淺草區駒形町  
電話國草二六三番

○農務局、各農會撰定品

○受於各博覽會共進會最高賞牌

毛綿メリヤス

製造卸商

## 倉廣川商店

東京市日本橋區橫山町三ノ一

- 第一工場 新潟縣高田市馬出町
- 第二工場 東京市日本橋區馬喰町
- 第三工場 東京府下寺島町一〇八四

### 營業課目

臺灣バナナ促成蔬菜類  
 津輕産苹果各種果實類  
 紀州物産全般青物  
 北海道物産全般土物  
 各地産山葵漬物  
 各地産松茸切干  
 各地産  
 一般屋

東京市本所橫網町江東市場

增田屋號

## 合增田由太郎

事務所 東京市本所區橫網町二ノ七  
 電話 墨墨 八六〇番  
 振替 東京 八五四七番  
 電信 略號 マス又ハマ

### 副業としてのメリヤス

メリヤスは地方でも小資本で出来ます  
 メリヤスの販路は到るころにありませ  
 ムリヤスは織物さかひ多テ若しくはヨコ糸  
 ちか一方だけで編んだもの總稱で手袋、靴下、シ  
 ヤツ、メボン、下スエーター、腹巻、襟巻など  
 べてメリヤスであります又メリヤス申しまして  
 も冬物ばかりでなく夏物もあり着も申して  
 糸や綿糸ばかりでなく絹糸でも編めます



## 永田メリヤス機械株式會社

本社 東京市外西巢鴨(大塚終點)  
 電話 小石川 一〇七五 振替 一七一九五  
 出張所 大阪市東區京橋三丁目四二

家庭及副業用機械

一つの機械で手袋、靴下、腹巻、腰巻、襟巻、帽子、ス  
 エーターなど手編より簡單に早く編む事が出来升  
 靴下専用機械 三五四〇〇〇より  
 動力用大脚吊機 四〇〇〇〇〇内外  
 メリヤスの反物を編む最高級の機械です  
 (收支計算もお知らせ致します工場設計も致します)  
 編方定期講習 毎月二回以上(期間一週間)本社で  
 致しています、講習規定及力タロケ 御報進呈

製粉部製品目錄

カア1印 粉(時製品高級製麵麩麩向)  
 カツプ印 粉(高級製麵麩麩向)  
 天女印 粉(薄力高級製菓向)  
 赤七福印 粉(強力粉製菓向)  
 汽七福印 粉(等力粉製菓向)  
 青七福印 粉(等粉製菓向)  
 二福印 粉(等粉製菓向)  
 鯛印 粉(五德用十八斤入向)

東京市深川區佐賀町二丁目拾七番地  
**Ⓜ**松本米穀製粉株式會社 東京支店

電話墨田 四九〇三 (長)五二五〇・五九〇二  
 發信略號 (マ)又 (マ)マツモトベイコク  
 受信略號 (マ)又 (マ)マツモトベイコク

米營肥部目錄

大豆粕・豊年撒豆粕・硫安・  
 加里・滿州大豆  
 臺灣米・蘭貢白米・西貢白  
 米・輸入穀

高等花卉  
 蔬菜栽培及種子販賣  
 組立溫室販賣

文華園

東京市麻布區三軒家町廿八  
 電話高輪一三二八五  
 振替口座東京 六六八九四

花卉蔬菜促成栽培は最新最有利なる農家の副業なり之には最も經濟的安價なる耐久無比、素人組立自在なる弊園特製鐵製フレーム及び鐵骨組立溫室を御利用あれ

皇太子妃殿下

御産室暖房用電熱器  
 御買上ノ榮ヲ賜フ

全國副業展覽會出品

營業目錄  
 自働電熱繭乾燥機  
 自働電熱麵乾燥機  
 自働電熱餅燒機  
 自働電熱魚燒機  
 營業用電熱海苔乾燥機  
 營業用電氣アイロン  
 營業用無紐電氣アイロン  
 家庭用飯焚兼七輪  
 家庭用電氣風呂  
 暖房用電熱器  
 家庭用無紐電氣アイロン  
 家庭用電氣溫室  
 其他工業用營業用  
 家庭用電熱器一切

東京電燈及東邦電力株式會社

各出張所ニテ家庭用電熱器ヲ販賣又ハ貸付シテ居リマス

合資會社

松井電熱工業所

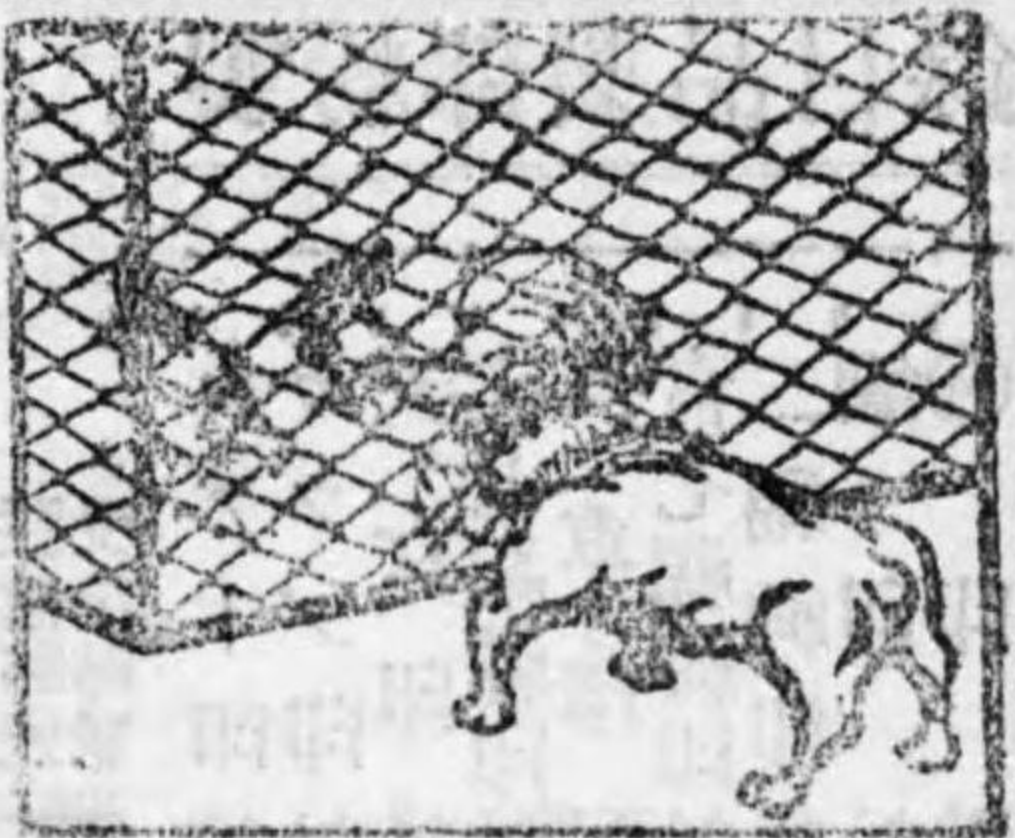
東京大森町澤田六三〇  
 電話大森長七二〇

一ヶ年十數億萬圓ニ相當スル發電力アル水力ハ無用ニ放棄セラレツ、アリ

木炭石油ノ輸入ハ一ヶ年十數億萬ヲ計上スルニ非ズヤ

### 家庭用菱形金網

大正十四  
年十一月  
の値段



□網目は斜に測ります  
□巾は針金の小口から小口まで  
□長は網を巻ける方向に測ります  
□巾は三米位まで  
長は四米位まで出れます  
□尤も長は現場で測りますから何米ものでも出れます。

#### ○防鼠用

網目 用線(亜鉛引) 一平方米代價  
二センチ 一・二ミリ六番(第廿七號品) 〇・六五

#### ○防犬用

七・五センチ 二・八ミリ七番(第廿八號品) 〇・四七  
一〇センチ 三・三 十番(第卅三號品) 〇・六九

#### ○養鶏用

五センチ 二・〇ミリ七番(第卅四號品) 〇・四五  
五センチ (臺處便所窓等稍體裁を論ぜざる所に適す) 〇・七五

#### ○防盜窓網

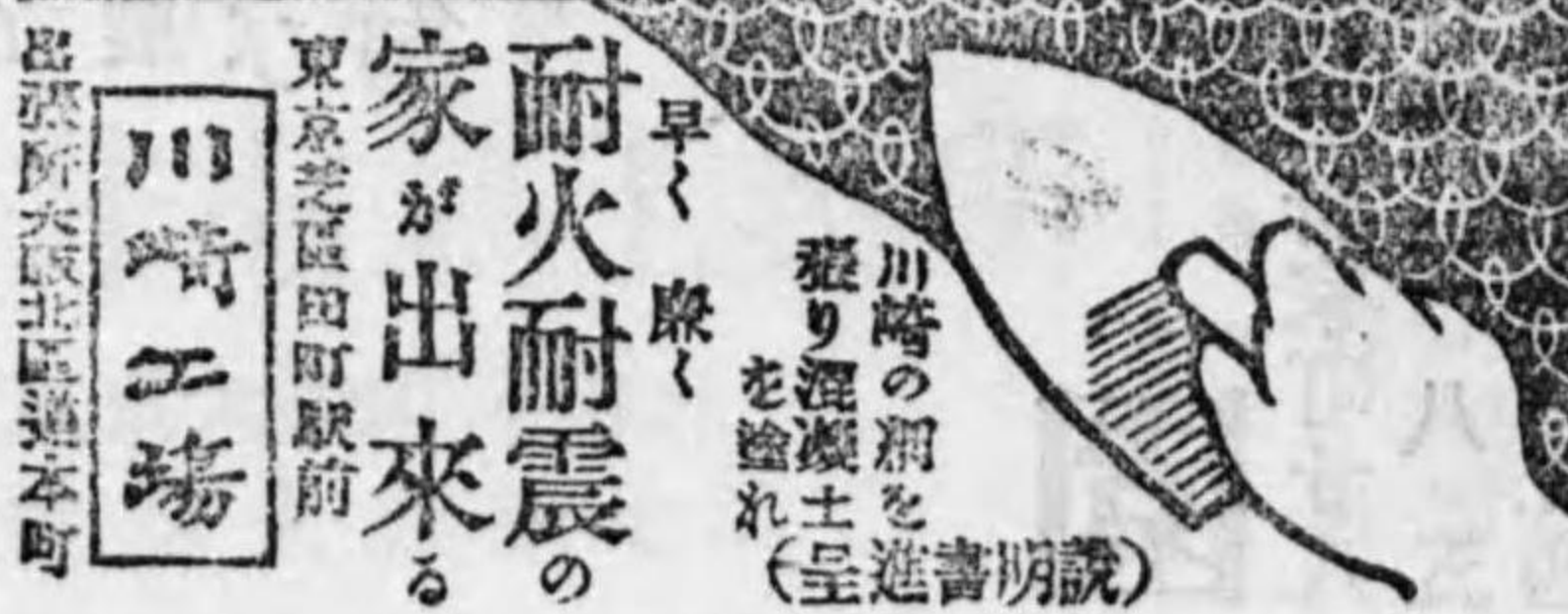
五センチ 二・六ミリ七番(第卅五號品) 〇・七五

#### ○外庭仕切用

一五センチ 四・〇ミリ八番(第卅九號品) 〇・四六  
一三センチ 三・三 十番(第卅九號品) 〇・四三

金網の二坪分代價は 一平方米分の三・三倍  
一平方尺代價は 一平方米の壹割  
さお考え下さい。

## テツコクノリ



早く早く耐火耐震の家が出来  
川崎工場  
東京芝区田町駅前  
出張所大阪北区道本町  
詳しいことは「川崎工場月報」を差上げますからいらん下さい

## 神奈川県

### ◎梅干類 年産額 二十萬圓

古來小田原梅干として天下に其の名高く、近時其加工技術進歩し、且つ製品の種類も著しく増加した、販路は東京、埼玉、福島、岩手、北海道、關西地方遠くは北米、南米、布哇、朝鮮、滿洲方面に輸出するのである。

生産者 足柄下郡小田原町

足柄上郡曾我村

同 松田町

鈴木正吉  
上曾我信用販賣購買利用組合  
三宅新太郎

### ◎真綿 年産額 參萬圓

愛甲郡、高座郡、鎌倉郡、津久井郡を主産地として、近時は益々其産額増加してゐる。販路は東京市、横濱市、八王子市、静岡縣である。

生産者 愛甲郡依知村上依知

高座郡田名村

同 大澤村

同 六會村

依知村真綿組合  
田名真綿生産組合  
有限責任信用販賣利用組合  
聯合會 漸進社  
六會村真綿製造販賣組合

橘樹郡中原町

大場 吉隆

同

西村 與三郎

同

西村 勝右衛門

足柄上郡松田町松田總領

山口 小太郎

同

澁谷 ツル

◎蕙 年産額 八萬三千圓

都筑郡山内村花田、足柄上郡福澤村、酒田村は主産地で、主に穀類乾燥用に供する、其の販路は東京府、埼玉縣、横濱市である。

生産者 都筑郡山内村花田二二三六

椿 彌吉

◎飾 年産額 一萬圓

古來より飾の生産を爲し來たりしが、大正八年には組合の設立を見、現在に於ては組合員二十七名である、販路は主に京濱間である。

生産者 橘樹郡中原町五四六

市ノ坪 飾組合

◎葎 年産額 一萬圓

百年前より自生した葎を原料として製造したもので、主に高座郡茅ヶ崎町、川崎市に於て生産する。現在では製品も改良され、販路は東京市、横濱市である。用途は日除

用、魚類の乾燥用である。

生産者 高座郡茅ヶ崎町

茅ヶ崎町副業奨励會

◎苫 年産額 千五百圓

二百年前より自生せるチガヤにて製造し、高座郡茅ヶ崎に於て生産する、販路は静岡縣、千葉縣である。

生産者 高座郡茅ヶ崎町

茅ヶ崎町副業奨励會

◎飯櫃 年産額 二千圓

明治四十年頃より創始したもので、藁を原料として製造し、主に中郡成瀬村、高座郡茅ヶ崎町に於て生産され販路は横濱である。

生産者 高座郡茅ヶ崎町

茅ヶ崎町副業奨励會

◎座敷箒 年産額 二萬圓

愛甲郡中津村を中心として栽培された箒草で、副業的に製作せらるゝもので、現在では原料不足し栃木縣より原料の供給を受けてゐる、製品の販路は東京府下並に静岡縣及阪神地方である。

生産者 愛甲郡中津村中津下九三二

齋藤 嘉平治

◎簀 年産額 二千圓

箱根山中に自生せる茅を原料として製するもので、冬期農家の副業として生産され、原料豊富な爲め將來益々生産増加の見込がある。販路は主として縣内各地である。

生産者 足柄下郡宮城野村 宮城野村農會

◎瓶 苞 年産額 二萬五千圓

明治廿七年頃より製作に従事するに至り、主として鎌倉郡、橋樹郡、都筑郡に於て生産される、其種類はビール瓶、サイダー瓶用で、販路は主として横濱キリンビール會社並東京府下大日本ビール株式會社其他サイダー會社等である。

生産者 鎌倉郡川上村向山田七四〇 有限責任後山田販賣購買組合 山本 庄 吉

都筑郡新田村谷田五五八三

◎花百合 年産額 五萬圓

専ら海外輸出用として栽培され、津久井、鎌倉、高座郡等より産する。

生産者 津久井郡千木良村 岸 岩 吉

同 加藤 定 一

◎纈草根 年産額 二千五百圓

都筑郡山内村、中川村に産し、明治四十五年頃より栽培せられ、歐州戰亂當時の好況時に於て産額増大せしが、近年不況の爲漸次栽培反別減少してゐる。大正七年在田纈

草根組合を組織して生産物の検査及共同販賣をなしてゐる。販路は主に東京府下藥種商である。

生産者 都筑郡山内村在田一三二八 徳江 勝 次 郎

◎タイムセージ 年産額 五千圓

明治初年頃より栽培したもので、栽培地は久良岐郡屏風ヶ浦村と横濱市の一部で、大正九年に組合を設立して生産物の検査及共同販賣を爲すに至つた、用途は主にソース、ハム等の香辛料である。販路は主として横濱市、神戸市、東京市である。

生産者 久良岐郡屏風ヶ浦村森中原 神奈川縣香辛料作物栽培組合

◎玉葱種子 年産額 一萬千圓

津久井郡三澤村、日連村、與瀬町、中野町に於て生産せられ、従事以來日向淺く、且つ空廢地利用として生産せらるる故、産額僅少なりと雖も品質優良なる爲め、種子用として需用が多い。販路は各地玉葱生産地方である。

生産者 津久井郡中野町 津久井郡葱頭採種組合

◎サフラン 年産額 四千圓

明治十九年頃より栽培せられ、明治四十年前後には其栽培面積大なりしも、近年病害發生せし爲め栽培面積減少するに至つた。生産品は組合を経て東京藥種商に共同販賣

をして居る。

中郡泊英園 島崎庄太郎  
被培養組合長

生産者 中郡岡崎村二六七番地

◎葱蜀葵 年産額 三萬圓

産地は鎌倉郡中和田村、高座郡澁谷村で、静岡縣、三重縣、大阪府、岡山縣、高知縣、香川縣等の製紙地方に販賣せらる。

生産者 鎌倉郡中郡和田和泉三三五三 安西嘉吉

◎密柑 年産額 百五十萬圓

二三十年以來非常な發達し、現今は足柄下郡最も多く、全産額の約九割を占めてゐる。販路は東京、横濱市場は勿論、山梨、長野、北海道にも搬出せられて居る。

生産者 足柄上郡川村 鈴木秀吉

同

同

武井仙之助  
鈴木開作

◎箆籠類 年産額 二十萬圓

縣内各地に生産し、種類も亦甚だ多い、販路は東京及縣内各地である。

生産者 中郡須馬村須賀 府川元次郎

◎石炭箆 年産額 一萬九千圓

鎌倉郡本郷村、都筑郡、久良岐郡に於て製作し、何れも自生竹林を利用するもので、其販路は主に横濱東京である、十年前は賣行良好なりしが、現在では稍々劣つて居る。

生産者 鎌倉郡本郷村桂七四六 八ッ橋彌太郎

同

同

同

同

長谷川準治

上野二五三 高橋瀧次郎

二七九 角田善吉

一一二 角田廣吉

◎花籠 年産額 三千五百圓

二十年前以前創始せるもので、歐洲戰亂當時の好況時は輸出盛んで、産額多大なりしが、現今の如く輸出不振の時代では其の製作僅少である、販路は東京市、横濱市である、一部は横濱市を経て米國に輸出せらる。

生産者 高座郡大澤村下九澤 鳩川竹細會久野茂作

◎木炭 年産額 百五十二萬圓

大正八年以來製炭技術の改善を計る爲め、諸種の奨勵を爲した結果、品質俵裝共に改良せられ逐次産額も増加してゐる、主産地は津久井郡、足柄上郡、都筑郡、高座郡で、販路は東京、横濱である。



生産者 高座郡大野村上鶴間五二二 阿部清吉  
津久井郡中野町 津久井郡木炭業組合

◎山葵 年産額 二萬四千圓  
大正八年以來奨勵せし結果、各郡に栽培を見しも、震災の結果多くは荒廢するに至つた、足柄上郡、愛甲郡、高座郡は主産地で、現在では漸次回復の状態に在る。販路は小田原町を主とし、東京、横濱方面にも搬出する。

生産者 高座郡溝村上溝一三三四 金子良藏

◎パイプ竹類 年産額 二萬五千圓  
足柄上郡及足柄下郡地方は所謂箱根竹の産地でパイプ竹及ラウ竹の産出多く、販路は静岡縣及東京、横濱方面である。

生産者 足柄上郡三保村 佐藤爲三郎

◎解皮 年産額 二千圓  
津久井郡に生産せられ、單寧材料として、東京方面に移出せらる、近年漸次産額減少の傾向である。

生産者 津久井郡澤井村 鈴木忠次郎  
同 坂下房吉

同 佐野川村 佐藤信興  
同 邊見勝代

◎栗虫綿 年産額 二萬圓  
明治三十八九年頃より引續歐洲方面に輸出せられ、主として東北地方及岡山縣下に於て生産せらる。

生産者 横濱市扇町二ノ七八 相澤敏雄商店

◎貝細工 年産額 二十五萬圓  
古來より鎌倉郡川口村、鎌倉町特産物で、所謂江ノ島貝細工として天下に名聲を博し、土産品用として全國遊覽地に供給せられ、縣に於ては大正十一年以來引續き講習會を開催し、益々技術の改善及品質の向上を計つてゐる。

生産者 鎌倉郡川口村片瀬 竹内勝書

◎鹽 辛 年産額 二十萬圓  
約三百餘年前足柄下郡小田原町美濃屋吉兵衛なる者の創始せし所で、現今では小田原蒲鉾と共に其の名天下に高く、販路は東京、横濱方面に小田原土産として賣行が多い。

生産者 足柄下郡小田原町(みの政) 鈴木政吉

大正十一年以來釣鉤製作講習會を開催して、製作技術の改善を圖り漁村副業として獎勵をなした爲、逐次産額増加し、現今では殆んど自給するに至つた。

生産者 久良岐郡金澤村野島五八 野島漁業組合

◎煮干鰯 年産額 三千萬圓

三浦郡、高座郡、足柄下郡に於て生産せられ、生産増加の現況である。販路は東京市である。

生産者 三浦郡南下浦村上宮田 新倉 武次郎

◎鰯味淋乾 年産額 一萬圓

三浦郡及足柄下郡を主産地とし、三浦郡では大正八年水産會主催のもとに講習會を開催し、之が製造を獎勵した結果、漸次産額増加してゐる。販路は主として東京市である。

生産者 三浦郡南下浦村上宮田 新倉 武次郎

◎鰯大和煮罐詰

大正十四年五月漁家副業として三浦郡水産會に於て獎勵したもので、今後益々獎勵し産額の増加を計つて居る。

生産者 横須賀市公郷町三浦郡役所内 三浦郡水産會

◎燒乾鰯 年産額 一萬圓

主産地は三浦郡で、漸次産額増加の傾向に在る。販路は東北地方北海道である。

生産者 三浦郡南下浦村上宮田 新倉 武次郎

◎兔毛皮 年産額 四十萬圓 二十萬枚

吾國在來白色兔毛皮は大正十二年頃より海外輸出を見るに至つた、横濱市を中心として集散するもの約二十萬枚に達す、而して輸出先は全部米國である。

生産者 横濱市扇町二ノ七八 相澤 敏雄

◎雞毛 年産額 二十萬圓

關東、東北地方に生産する羽毛は、其一部は東京方面で需要せられ、他は全部横濱港を通じ海外に輸出せらる、輸出先は主として歐洲で、其の内獨逸が最も多いのである。

生産者 横濱市扇町二ノ七八 相澤 敏雄

◎蜂蜜 年産額 一萬圓

明治四十年頃より従事せられて、現在では足柄上下兩郡並に中郡に於て生産せらる、販路は主に東京市内の製藥會社である。

生産者 足柄下郡足柄村谷津八番地 駒井 養蜂園

◎麻真田 年産額 百五十萬圓 三百萬反

明治四十二三年頃より輸出せられ、震災前は四百五十萬反以上を輸出せしが、震災の

爲め一時殆んど中絶の有様となつたが、現今では震災前六割以上を生産するに至り、世界各国皆輸出せられない所はないけれども、米、佛、獨、濠、伊、瑞等最も多く尙全輸出額の四五割は英米二ヶ國に輸出せられて居る。

生産者 横濱市櫻木町一ノ一

横濱真田商同業組合

◎布帛加工品及刺繡編物類 年産額 三百萬圓

明治三十年前後から横濱地方に於て、各種布帛加工品及刺繡編物類の婦人手藝品の生産盛にん行はるに至り、歐洲戰亂當時に於て最も好況を呈し其の産額多つたが、震災後は頓に不振の状態に陥り横濱港よりの輸出額は神戸港約半額に過ぎないやうになつた、又大正十三年三月神奈川縣副業獎勵會を組織し、二十有餘の團體を網羅してミシン裁縫品及編物類の生産販賣を爲してゐる。

生産者 神奈川縣廳内

神奈川縣副業獎勵會

横須賀市汐入町一六一

内山惣松

横濱市久保町一一五五

横濱織物加工共同工場

◎玩具 年産額 六十五萬圓

足柄下郡、箱根地方、中郡大山町を産地とし、其種類極めて多く、其産額は益々増加して、原料は主に東北地方より供給を受ける。販路は全国各地の遊覽地に土産品として移出せらる、就中東京、栃木縣、京阪地方が主なるものである。

生産者 中郡大山町

大山物産々業組合

◎マツノ式かやいらす 年産額 五百圓

和歌山縣地方より原料の供給を受け、特種の器械で製造したもので、販路は主として東京である。

生産者 川崎市南河原町廿一

家庭副業研究會 松野峰

營業品目  
 天産物 毛皮類  
 羽毛製鳥 農具  
 輸出入商

器獸捕製社會ダニオ國米  
 賣販手一洋東

横濱市扇町二丁目

貿易商 **相澤敏雄商店**

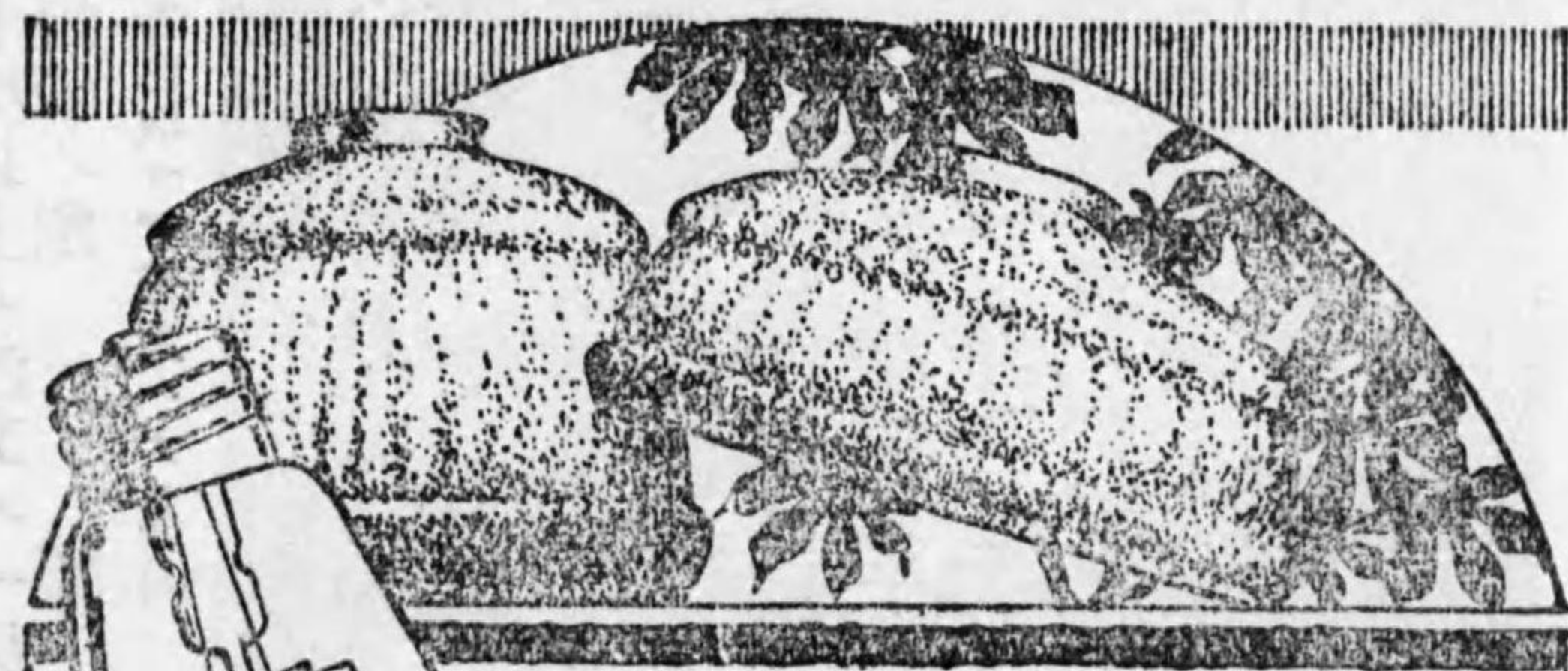
私書函横濱長者町局第四號  
 振替東京六七四四六番  
 發信略號(ア)又ハ(アイ)  
 受信略號(ヨコハマアイザワ)

東北代理店 秋田縣横平町寺町

伊澤武治商店

北陸代理店 石川縣津幡町

大崎幸次郎商店



マツダランプと  
 サテン・色セード

良き電球とは

壽命ばかり永く作つてある電球は偏力に比して電氣が適に澤山要りますから却つて御損になります。壽命と所要電量との關係を最も御徳になる様に作る事が最良の電球たる條件であります。マツダランプが世界的優品たる定評を忝なく致して居ります。是は此條件を具備して居るから御座います。

新しき電燈笠

濃きも淡きもその色合美しく、深きも浅きもその形に趣あるサテン・色セードは、紅、桃、空、綠、櫻紅、白の六色がありまして、商店や日本室向として皆様から非常に歡迎されて居ります。

東京電氣株式會社  
 神奈川縣川崎市

マツダランプのキバ体温計

全 國 各 技 藝 女 學 校 御 用



要領 五十反以上ノ注文ハ一反  
金拾錢ノ割  
(無地各色取マテ差支ヘナシ)

品質優良 碼數確實

神奈川縣副業獎勵會指導  
神賀人會庭副業製部造元  
横須賀市深田三一

新 潟 縣

◎梨 年産額 一百五十萬圓

縣下の梨果は北蒲原郡木崎村地方は其歴史最も古く、明治初年前既に相當の産出量を有し世に認識せられしが、爾來栽培普及の奨励と同時に、一面業者の研究努力と相俟て、漸次其發達を觀、殊に同郡葛塚、聖籠村地方中蒲原郡龜田郷、白根郷、西蒲原郡月潟村を中心に其栽培者逐年増加し、最近は栽培樹數四拾餘萬本に及び、越後梨の主産地として世に紹介せらるゝに至つた。殊に近年種類の改良栽培、技術の向上と共に、貯藏梨就中早生赤晩三吉は各地市場にて名聲を博し、東京、北海道、朝鮮其他各方面の需要年と共に加はつた、是洵に大量生産と共同組織の發達と克く四五月迄完全に貯藏せらるゝ特長を有するからである。

生産者 北蒲原郡聖籠村

同 西蒲原郡小吉村

同 小中川村

同 月潟村

渡邊 郡 四郎

土田 亦 次郎

山澤 熊 太郎

櫻井 五 市

深澤 佐 一



繩	小魚沼郡吉谷村	佐藤伊太郎
同	同	込田安次郎
同	同	石坂徳太郎
同	堀之内村	田戸副業組合
同	同	覺張清治
同	同	星野熊太郎
同	同	瀨沼徳松
繩	新潟市	水本彌惣八
繩	吹	古志長岡薬工品同業組合
繩	古志郡長岡市	

◎木炭 年産額 六百五十萬圓  
 佐渡、岩船、東蒲原、西頸城の各郡は概ね山間部地方に位し、従て炭材豊富で優良なれば、之等各郡は古來より主要産地として世に識られしが、大正二年以降縣は長短期講習に、或は教師の養成に若しくは同業組合及副業組合の設立奨勵に銳意し、一面東京市場に對し講習會を開き販路の展開を講せしかば、急進的發達を見、縣外移出五百萬貫に達し、殊に白炭は備長に次ぐ良質なれば世の歡迎する所となつた、近時又金山式製法は未だ製炭界に其類例を見ざる所、今後の進展計るべからざるものがある。

生 産 者

白炭	東蒲原郡津川町	東城源三郎
黒炭	中頸城郡米山村	西卷良治
同	同 今井村	木炭改良組合
同	岩船郡上海府村	製炭改良組合

◎竹細工 年産額 八十萬圓

従來佐渡郡は竹材の豊富なるを以て聞え、従つて明治初年より竹細工の製作を見、漸次北南蒲原郡地方にも其製作者増加せしも是等は日用品即ち輪竹、籠箆に止まり、北海道の外他府縣に移出するもの僅少なりしが、大正二年美術的竹製品の奨勵を開始し、技術優秀なる講師を招聘して講習會を開催し、或は巡廻指導に品評會開催等努力の結果、西蒲原、南魚沼、新潟市等著しく振展し、殊に花籠、文庫、衣裳入等着色品は他府縣に優越するに至つた、就中木根、竹氣根を應用せる花籠は他府縣の追従を宥さざるものである。角物の大量生産と共に越後竹細工の名聲彌々高からんとするを見るに至つた。

生 産 者

屏風衣裳籠	南魚沼郡伊米ヶ崎村	駒形虎之進
-------	-----------	-------

着色盆

西頸城郡糸魚川町

谷口竹總齋

同 籠類

佐渡郡金澤村

新保同志團長  
仲川十左衛門

同 花籠

西蒲原郡吉田町

五十嵐久一

同

新潟市

岡田竹工齋

同

同

加藤一竹齋

同

同

菊地鹿之助

着色籠類

同

鶴問竹六齋

同 火鉢

三島郡出雲崎町

中川堅治

同 炭取

同

伊藤忠吉

◎紫 蕨 年産額 三十萬圓

北魚沼、東南蒲原郡等の山間部は紫蕨の生産盛んにして、採收加工は従来古より行はれしも製品及販賣機關の不備により名を爲さざりしが、近年副業組合の組織と青、赤干共に其製法を改善の結果、大阪、神戸市場には越後紫蕨として歓迎せられ、近時東京方面にも其名を知らるゝに至つた。

生 産 者

乾燥品

北魚沼郡堀之内村

北魚沼郡紫蕨出荷組合

同

西頸城郡木浦村

木浦信用購買販賣組合

惠比壽煮

南魚沼郡大崎村

中 島 榮 作

◎杞柳細工 年産額 二十萬圓

明治三十五年頃三島郡與板町を中心に、信濃川沿岸堤外地に杞柳栽培の奨励と共に、之が加工講習會の開催技術の傳習をなせし結果、逐年従業者を増し、産額又著しく増大し、漸次新潟、長岡地方及び縣内並北陸、北海道、東京方面に販路を有するに至つた。縣下の杞柳は肥沃地に於ける密生栽培の爲め條幹の發育理想的にして、城崎市場では常に一等品として認識せられ、空中濕氣多き氣候は其製作に尤も適應するが爲にして、今後の斯業は異數の發展を見るであらう。

生 産 者 三島郡與板町

有限責任與板信用購買販賣組合

◎蘭 蕙 年産額 十五萬圓

従来西蒲原郡卷町を中心に、創始は明治三十五年頃より漸次郡内各地其他中、南魚沼郡等に漸次奨励を加へし結果、品質の改良と同時に、其産額増加し、縣内各地其他の地方にも相當販路を有するに至つた。

生 産 者 南魚沼郡城内村

山 崎 廣 信



中魚沼郡田澤村

同

西蒲原郡小吉村

山本榮吉  
山本留吉  
小吉村副業組合

◎白菜 年産額 三十萬圓

白菜は北蒲原郡濁川地方の栽培を嚆矢とし、大正四年頃より漸次郡内各地に栽培者起り、次で中蒲原郡満日村、大江山村其他の方面に栽培反別増加し、今や縣内に採種組合の組織なり、相當優良種子の供給と共に、是が貯蔵方面に新工風を凝せるを以て、結球完全なる良質品の供給潤澤なれば、將來益々各市場に産出すべき状態である。

生産者 北蒲原郡濁川村

同

同 佐々木村

同 中蒲原郡満日村

同

同 白井村

同 鷺巻村

同

新崎園藝組合  
濁川園藝組合  
佐々木白菜組合  
増井仙吉  
満願寺白菜組合  
藤田千太郎  
西笠巻蔬菜組合  
南部園藝組合

同 大江山村

同

同 鷺巻村

西山蔬菜組合  
直山園藝組合  
西笠巻新田園藝組合

◎牛蒡 年産額 六十萬圓

牛蒡の特産地は北蒲原郡京ヶ瀬村を中心に安田村、中蒲原郡横越村地方にして、近年種類の改良栽培技術の普及向上等指導奨励の實蹟大に擧り、漸次南蒲原方面及び、其面積數百町に上れり。蓋し信河兩大川の沿岸沖積層の深層に充分なる發育を遂げ、天然的に良質長大の大量生産を爲し得るもの他に多く其類例を見ず、近年北陸より大阪方面に漸次販路を展開するに至つた。

生産者 北蒲原郡川東村

同 中蒲原郡横越村

同

同 西蒲原郡小池村

同

同 大島村

同

藤倉長助  
小杉蔬菜組合  
澤海蔬菜組合  
清水吾作  
大曲蔬菜組合  
田村玉藏  
土田久太郎

◎百合 年産額 三十萬圓

中魚沼及北魚沼郡地方は百合の栽培に最も適し、大正八年頃より奨励の結果、各地に百合栽培組合を組織し、其活動顯著となり、又中頸城、三島郡地方に於ける産地も引續き同様組合設置を見、益々産額の増加と品質の改善を期するに至つて、大阪、名古屋方面市場に北海道生産品と角逐して克く好評を博するに至つたのである。

生産者 三島郡大積村

古志郡荷頃村

同 太田村

同 種芋原村

北魚沼郡田川入村

同

同

同

同 中魚沼郡吉田村

同

小倉百合組合

本津川百合栽培組合

太田村百合栽培組合

種芋原村百合栽培組合

渡邊 榮治

渡邊 幸太郎

渡邊 富治

森山 徳太郎

森山 政吉

羽鳥 音藏

太田 眞平

中魚沼郡水澤村

同

同 下條村

同 吉田村

同 中頸城郡谷濱村

同

同

同

上村 順藏

村山 徳正

小杉 瀧治

中町 保治

酒井 辰次郎

金森 保太郎

谷濱 副業組合

大原 重太郎

和瀬 田郡藏

◎製茶 年産額 五十萬圓

主要産地は岩船郡村上地方にして、其淵源は遠く舊藩時代に發せり、近年模範指導茶園の設置機械の應用と共に、越後茶の名聲を他府縣に擴むるに至つた。四番茶の産出せられ、玉露及番茶の特質を有するは、即本縣産の特徴なりと云ふ。

生産者 中蒲原郡新津町

同 新關村

同 村松町

共同製茶組合

渡邊 喜一

茶業組合

岩船郡村上町

瀧波重平

同

石田與平治

同

矢部仁三郎

◎柿 年産額 百二十萬圓

柿は縣下を通じて栽培せられ、近年或は優良種の共同栽培又は園藝組合の一齊接木獎勵團體の教師指導等により面目を一新し、蜂屋、じしや、身不知、富有等漸次統一的機運に向ひ、上越方面より北陸、大阪、名古屋等に移出せらるゝもの漸次増加し、將來重要産地たらむとするの狀勢である。

生産者 北魚沼郡城川村

田中定太郎

同

小野坂計次

同

小野坂元治

同

吉谷村

日岡榮吉

同

川口村

増川彌藤治

同

中頸城郡美守村

關房吉

同

富永猛

同

小山田悌治

同 金谷村

齋藤嘉平治

三島郡深才村

本村彦市

同

木村元次

同

岩淵六太郎

◎花卉及花卉球根 年産額 三十萬圓

花卉球根は克く和蘭と相對抗するの天恵を占め、殊にチウリップ、ヒヤシンス、グラデオラスの如きは寧ろ是を凌駕するの良品を産出し、信、河、兩川堤外地數百町歩は今後の發達地である。花卉の牡丹は現今本縣の右に出づる産地少きに至り輸出花卉の如きも益々名聲を博するに至つた。

生産者

チウリップ 中蒲原郡大江山村

村木恒藏

チウリップ 同 小合村

小田喜平太

同 大形村

小林平和園

同 小合村

長尾次太郎

同 西蒲原郡卷町

北越農事組合

同 中蒲原郡小須戸町

佐藤八十八

草花種子

寒梅

牡丹 同 小合村

小田喜平太  
長尾次太郎

其他製産品の主なるものを左に概説する。

◎人参

信、河兩川沿岸の肥沃地に栽培せらるゝ曾根人参は、品質は良好である。

◎西瓜糖

西蒲原郡は原料豊富にして、年産十石を産し、將來有望の産物である。

◎園藝苗木

南蒲原郡保内方面を特産地とし、山地を利用し其生産多く、特に枇杷、五葉松は其名を知られ、庭園用として需要が多いこと云ふ。

◎色鯉

古志郡平村郷を以て原産地として、古來より配合の蘊奥を極め、他の模倣を宥さざる所であつて、年産十五萬圓である。

◎妻有箒

産額多からずと雖も、本縣産黍は枝條纖細柔軟にして、最も耐久力に富んで居る。

◎慈姑

三島、中頸城、西蒲原郡等の水田に栽培せられ、質の緻密、風味良好なるを以て好評を博して居る。

◎葡萄

中頸城、西蒲原、北蒲原郡を主産地とし、中頸城の如きは二十餘町を占むる岩の原葡萄園は風味良好を以て聞えて居る。

◎艾

東頸城、中、西頸城郡等の山谷間に叢生する蓬を原料とし、生産豊富に、搗粉は加里肥料として採用せられて居る。

生産者

黍柄箒	北蒲原郡分田村	分田村黍柄箒組合
蒟蒻玉	同 安田村	蒟蒻栽培副業組合
黍柄箒	同	安田村黍柄箒組合
人參	中蒲原郡鷺卷村	東笠巻園藝組合
同	同 阿賀浦村	中新田蔬菜組合
同	同 鷺卷村	鷺禾園藝組合
同	同	小石権四郎

人 參  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 菓 菜  
 葱 荳  
 西 瓜 糖  
 紙 澁 紙  
 苗木(ビバ)  
 タ

中蒲原郡鷺卷村  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 西蒲原郡太田村  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 同 卷町  
 南蒲原郡加茂町  
 同 大崎村  
 三島郡寺泊町

品田力藏  
 大矢太作  
 品田惣次  
 遠藤平五郎  
 後藤須計一  
 渡邊仁作  
 山田徳藏  
 栗林虎藏  
 丸山富平  
 青木榮松  
 田村恒治  
 島上葱裁種組合  
 北越農事組合  
 山川勝三郎  
 前谷三吉  
 渡邊瀨治郎

色 鯉  
 同 同 同  
 紙 蔓 細 工  
 木 通  
 梅 ジャム  
 兎 皮  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 保 藪 袋  
 座 敷 簀 箆  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 慈 姑  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

古志郡太田村  
 同 竹澤村  
 同 東山村  
 北魚沼郡湯之谷村  
 南魚沼郡城内村  
 同 大崎村  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 中魚沼郡仙田村  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 同 六個村  
 同 中頸城郡旭村

太田村養鯉副業組合  
 竹澤村養鯉副業組合  
 東山村養鯉副業組合  
 星吉兵衛  
 南雲健輔  
 中島榮作  
 小杉圭治  
 上村徳治  
 佐藤計吉  
 高橋善吉  
 高橋與作  
 高橋富三郎  
 福崎龜松  
 井部祐吉  
 風卷豊作  
 永井惣太郎  
 吉村關藏  
 田中辰五郎

蜂椿剝捲艾蜂同同同葡同同同同同同同同同同同同同同同同  
 皮纏器器蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜  
 蜜油器器蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜蜜

中頸城郡五十公野村  
 同  
 美守村  
 島坂村  
 東頸城郡大島村  
 下保倉村  
 長岡市  
 同  
 佐渡郡相川町  
 新潟市

下鳥十郎 高倉一郎 佐藤傳治 飯田周治 佐藤真治 內山嘉一 富永之助 大坪潤治 渾川主計 吉越善治 尾島茂吉 藤倉直吉 本村三四郎 山本三郎 星野慎吾 井上貞雄 伊藤兼吉 谷五郎左衛門

越後牡丹新種作出の元祖は本園であります

盆栽花卉

牡丹球根

一般園藝

卸小賣業

各宮家諸官廳御用

新潟縣中蒲原郡小合村

長尾草生園

位置は信越線新津場より西一里半  
 振替は東京三五四一八番

牡丹と球根の「カタログ」御望みの方へ送呈致します

# 初生雛

名古屋  
白レグ

# 種禽種卵

新潟縣依託育成所  
各郡農會依託孵化

新潟縣中蒲原郡養鶏組合聯合會孵化場

事務所 新津町 新町

新潟縣中蒲原郡養豚組合聯合會

事務所 右 同

新潟縣中蒲原郡藁工品組合聯合會

事務所 新潟縣中蒲原郡農會内  
電話 四五番

優良にして廉價なる繩蒔其他一切藁工品

新潟縣中蒲原郡蔬菜組合聯合會

事務所 新潟驛 通り

白菜、牛蒡、大根、里芋

# 牡丹芍薬

チウリツブ グラジヲラス は 東洋一の生産地

久邇宮家 御用達 諸官廳御用

東伏見宮家

新潟縣委託花卉球根栽培場

御希望により營業案内御送付可致候

新潟縣中蒲原郡小合村小成場

信越線新津驛ヨリ一里半

## 小田小梅園

振替東京五六九五八番

特産結球白菜

賜 攝政宮殿下御買上榮

白菜  
莠根菜

北蒲原郡蔬菜園藝組合聯合會

電略(キソ)

肉豚仔

北蒲原郡養豚組合聯合會

電略(キヨ)

和梨  
葡萄

北蒲原郡果樹園藝組合聯合會

電略(キカ)

新 潟 縣 新 發 田 町

北 蒲 原 郡 農 會 內

電 話 四 一 六 番

富 山 縣

◎ 藁工品 年産額 四百五十萬圓

氷見郡を中心に、二百年前當時藩主の獎勵に依り勃興し、松前に移出せしに創り、今や下新川、中新川郡等を中心に縣内全般に普及し、生産者は十一万人以上、莖機三万余臺、繩機二万臺、水力電力藁打場千五百ヶ所に達した。縣は繩、莖、吹の三種の輸出検査を爲し、販路は北海道、樺太、北鮮及び全國二十三府縣に及んで居る。

生 産 者

- 改良大倉繩 上新川郡大庄村
- 大倉繩 東礪波郡野尻村
- 大倉繩及細繩 富山市清水町一九五
- 網 繩 上新川郡新庄町
- 網羽繩 婦負郡寒江村
- 同 繩 西吳羽村
- 同 繩 氷見郡余川村
- 米卷 莖 下新川郡新屋村

- 大庄副業實行組合
- 野尻第一藁工品實行組合
- 野口伊作
- 松村製繩傳習所
- 大塚藁製品實行組合
- 高木製繩實行組合
- 余川副業組合聯合會
- 新屋信用購買販賣組合



米 卷 蕙

下新川郡飯野村

飯野村一徳社信用購買販賣  
利用組合

同

氷見郡布勢村

深原農事實行組合

裏 蕙

同 佛生寺村

鞍 骨 曲

鑛 山 蕙

下新川郡上原村

道市副業實行組合

干 蕙

同 上野方村

大海寺新副業實行組合

同

同 道下村

道下業工品生産實行組合

同

同 中新川郡南加積村

南加積村農事副業實行組合  
聯合會

同

同 氷見郡碁石村

碁石村副業實行組合聯合會

◎籐 表

年産額 百萬足 八十萬圓

從來滑川町を中心にして明治三十二、三年頃創始せしが、獎勵の結果中新川郡一圓より隣  
接地上新川、下新川の兩郡及び富山、高岡兩市に普及し、大正十年縣一圓の同業組合  
設置せられ、製品検査を開始せしより製品噸に改まり、市價從て昂騰したのである、  
販路は大阪、東京兩市を始め全國に普及して居る。

生 産 者 中新川郡滑川町

株式會社深井商店

同

魚 躬 常 次 郎

◎菅 笠

年産額 百五十萬蓋 四十萬圓

西礪波郡の特産品で天正年間に創始せられ、熊本、鹿兒島、埼玉、新潟各地に移出せ  
らる、今や郡一圓に普及し、従業者三千五百戸、八千人に達するに至つた。

生 産 者 西礪波郡西五位村

五位庄菅笠蘭蕙購買販賣組合

◎蘭製品

年産額 五十萬圓

氷見郡を中心にして、西礪波郡、射水郡、東礪波郡に普及し、従業戸數約五千餘戸、一万  
二千名に達し、疊表及蕙産を主とす、縣は近時之が栽培製織を獎勵し、氷見郡蘭蕙同  
業組合及西礪波郡蘭蕙組合にて管内製品検査を開始以來漸次改良せらるゝに至つた。

生 産 者 氷見郡氷見町

氷見郡蘭蕙同業組合

西礪波郡正得村

道明副業實行組合

東礪波郡出町

東礪波蘭蕙實行組合

射水郡大江村

大江蘭草實行組合

同 下村

萩 野 龜 次 郎

同 佐野村

有限射水蘭蕙購買販賣組合

東礪波郡五鹿屋村

五鹿屋村蘭業實行組合

◎西 瓜

年産額 五十萬圓

氷見郡を中心にして、婦負郡、上新川郡、西礪波郡等に漸次普及せるが、内にも黒部西瓜

は美味、名稱は全國に普く、大阪、東京を中心に年々貳百車以上の移出を見、近時産額激増し、出荷組合も成立した。又近時西瓜糖を製出するに至つた。

生産者 下新川郡五ヶ庄村

西瓜糖及西瓜化粧水 同 入善町

黒部西瓜五箇所村出荷組合  
北辰香料株式會社

◎麻織物 年産額 百五十萬圓

西礪波郡福光町を中心に、東、西兩礪波郡の農村副業として發達し、副業的従業者約二万人、七十餘万圓に達す、原料は栃木縣より移入し、製品は疊縁地、蚊帳、座團蒲地等多數産出せられ全國各地に販賣せらるゝに至つた。

生産者 西礪波郡福光町

福光麻布組合

東礪波郡南般若村

田島入三郎

同 山野村

義井伊三郎

射水郡二口村本江

小谷宗次

◎干柿 (越の白柿) 年産額 拾萬圓

縣下は柿の産地として多量生産せらる、近時干柿の改良大に進歩し、殊に西礪波郡福光町を中心に販賣せる「越の白柿」は技術優秀、美味を賞せられ、愛知、石川、大阪、北海道、青森縣等の各地に移出せられて居る。

生産者 西礪波郡福光町

同 東太美村

四輪農業倉庫  
東太美干柿改良實行組合

◎茶 年産額 五萬五千貫 二十五萬圓

婦負郡、射水郡を中心に中新川郡に及び、近時共同製茶所續々設置せられ、副業實行組合を設置するもの多し、販路は縣内消費の外長野、新潟の各縣等に移出せらる。

生産者 婦負郡西吳羽村

同 古里村

庄司宗作

同 長岡村

岡崎恒次郎

射水郡老田村

森口與次郎

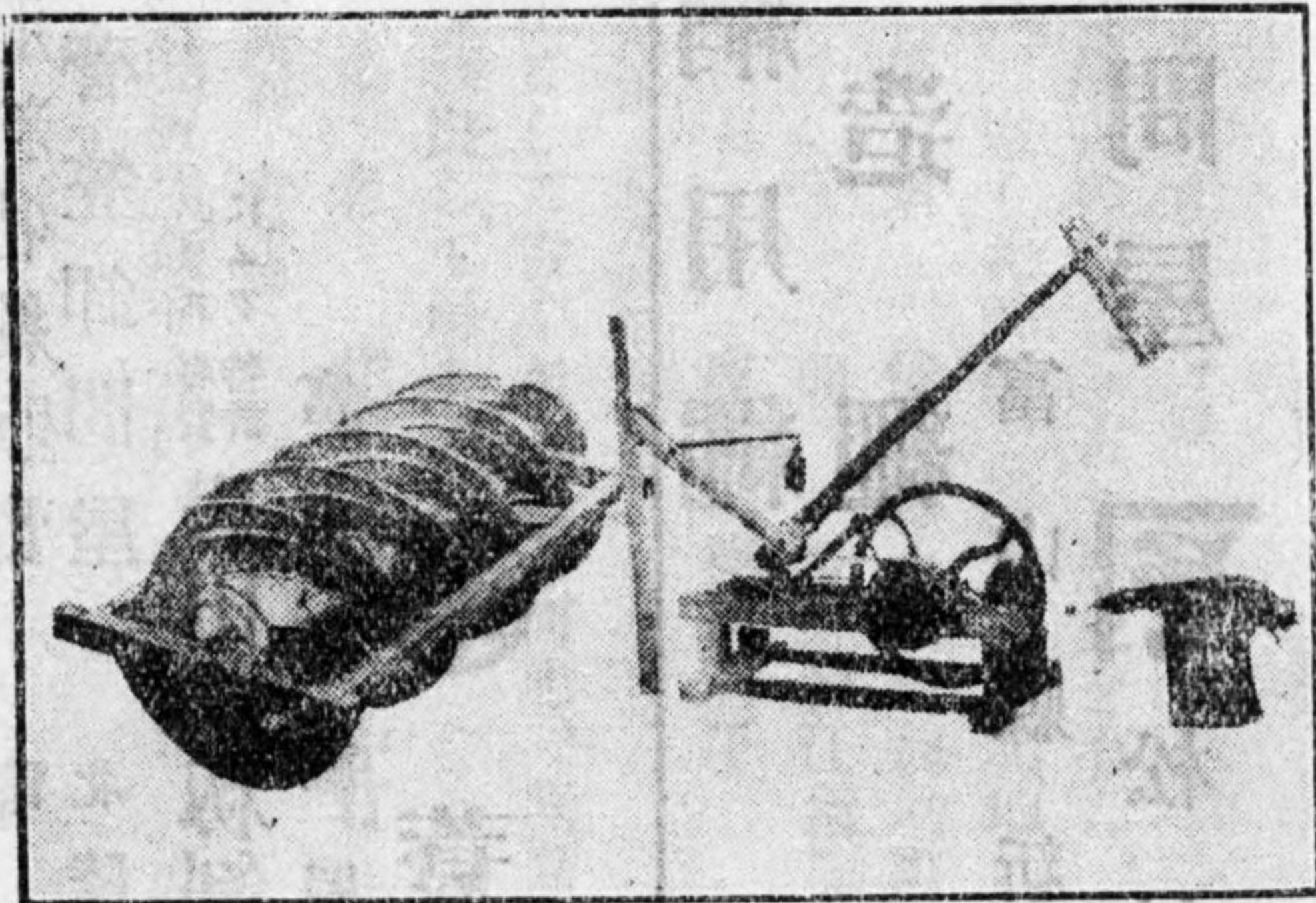
中新川郡

中橋憲太郎

中新川郡製茶改良實行組合

元祖(元)水車ト精米麥兼打機(型進) (錄呈)

金牌 於於於 北富香 陸山川 四縣主 縣東僅 聯波全 合郡國 農物農 具產具 共進會 進進會 會會會



**▲葉打機**  
新案特許第八三一四八號  
特長 彈力打ナル故束ノ中マテ徹ス  
所用馬力僅少テ能率偉大、据付簡  
易、移動容易、杵頭ヲ取替テ米搗  
兼用  
用途 葉打、米麥搗其他  
一日ノ能率 葉五十貫、精米二石  
定價 金四拾圓 金四拾五圓 金五拾圓

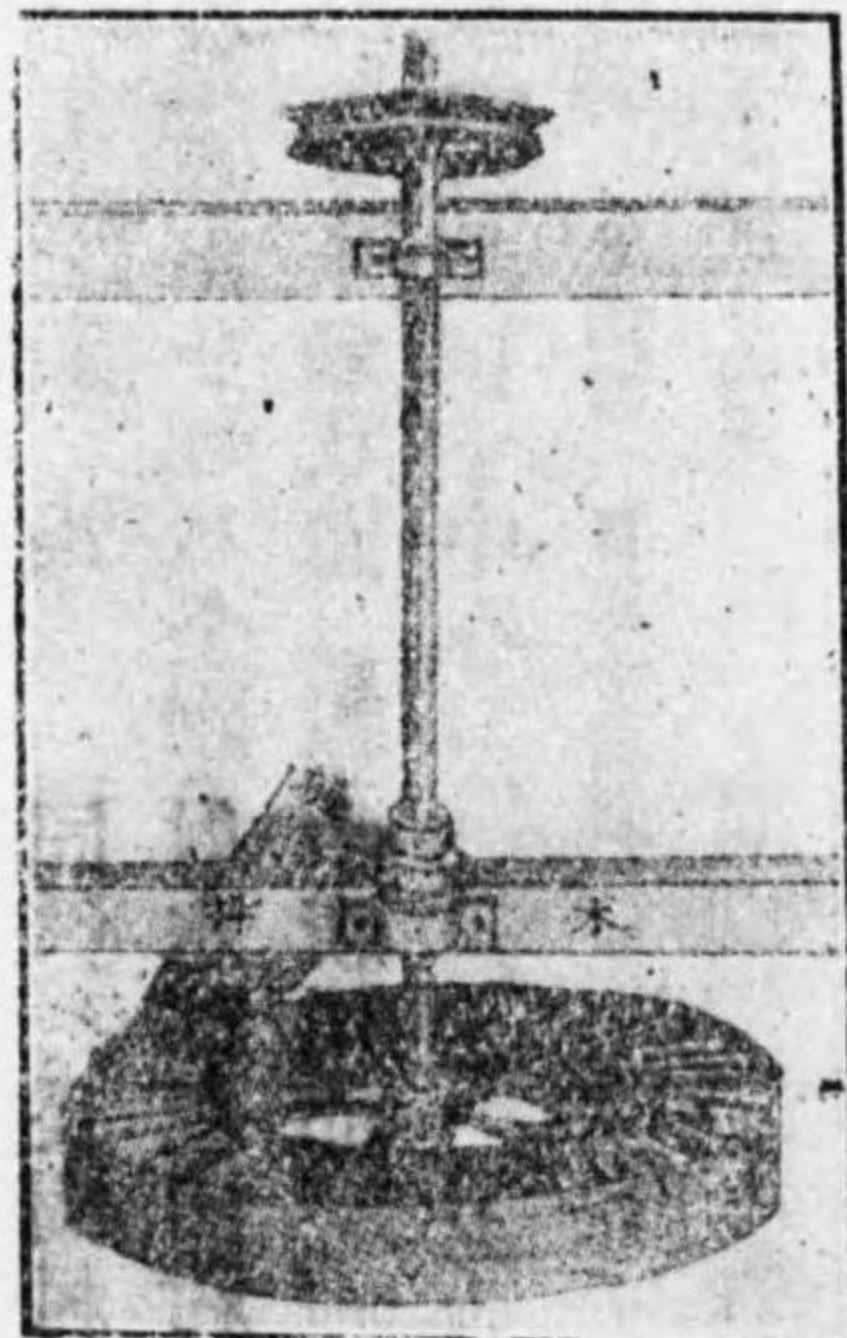
**▲螺旋水車**  
新案特許第五七四五三號  
特長 型小ニシテ移動容易ナリ、葉  
繩ロープ繩ニテ途中屈曲ナ間ハズ  
二百間マテ傳導作業ヲナシ得、  
水量僅少落差七八寸以上ヨリ有効  
ニシテ据付ハ至極輕便ナリ  
用途 總ベテノ原動力機ニ最適  
定價 金貳拾七圓ヨリ種々アリ  
水量落差ニ依リ御相談ニ應ズ

富山縣 東津島郡 南波野村 (中越線油田驛下車) 振替口座 金澤 二六五五番 電話 呼出シ町一〇四番  
製造元 元井商會 電 略 ○ モ ト (ハ) 又

新案特許 城川式輕便 第九六一四六號 第九六六二九號 水車ンピータ

農村動力化

些少の水量と落差を以て強力なる原動を發揮する城川式水車



本水車の特徴

- 一、車體堅牢 一、永久使用
- 一、價格低廉 一、据付簡易
- 一、網球入メタルにて廻轉輕廻
- 一、滿拾ケ年間保險證付

製作販賣元

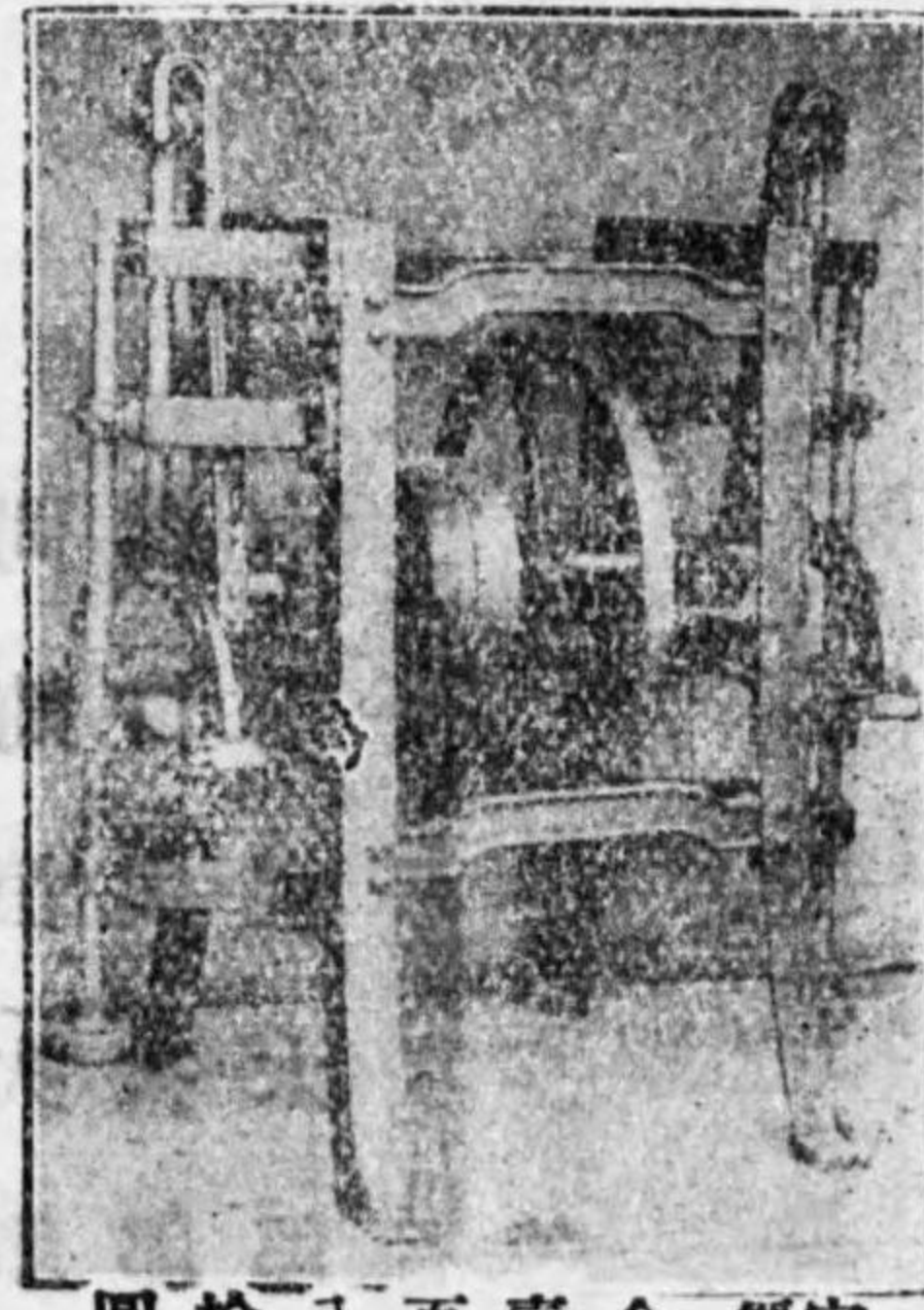
富山縣 富山市 堀川新驛前 電話一三二三番 振替口座 金澤六四三八

機號壹	金壹百五拾圓	(十馬力有效)
機號貳	金八拾五圓	(五馬力有效)
機號參	金五拾五圓	(二馬力有效)

特許出願中 城川式改良打機

農村副業の權威は葦工品なり

葦工品中繩綯は殊に有利なり 繩は柔かき物を歡迎する



定價 金壹百八拾圓

本機は動力壹馬力の約七分にて十時間貳百五十貫以上の葉を柔かくす本機にて打ちたる葉は打減りなく繩綯い易しく最新式の良機なり

城川鐵工所 店主 城川光次

煙草元賣捌所  
化學肥料特約販賣  
國産菅笠卸問屋

富山縣石動町  
電話 五番  
北陸福岡驛前

スラブ專賣  
にムク特許

岩田式剝剝機富山縣代理店

富山縣福岡町



蓑島宗平

振替東京三六三六六番  
電話 〇〇〇

漁網用繩  
荷造繩

富山縣新庄町

繩問屋 司松村繁次郎商店

電話富山一二〇二番  
振替金澤五二九七番

石川縣

◎疊表 年産額 百二十五萬圓

縣下の蘭業は慶長の昔より古き歴史を有し、能美郡を主産地とし、全國四大生産地の  
一に數へられ、遠く北海道、樺太、東北地に移出されて居る。

生産者 能美郡小松町龍助町

若杉仁太郎

同 金野村江指

堀田彌之吉

鹿島郡徳田村下

田中登與治

◎裏蕙 年産額 五万六千五百圓

疊表の裏打用として古くから縣下河北、鹿島郡を主産地として生産せられ、北海道、  
樺太、關西に移出して居る。

生産者 能美郡根上村中江

東友吉

◎建長蕙 年産額 七千圓

梱包用として晩近生産せられ、縣下江沼、石川、河北郡を主産地とし、大阪、北鮮等  
に移出されて居る。

生産者 石川郡中奥村倉光

寺田伊知治

◎野草蒔 年産額 六万六千圓  
政府が特に本縣に指定した新事業で、縣下石川郡を主産地とし、製品は神戸を經由し  
歐米諸國へ輸出されて居る。

生産者 石川郡野々市町

德澤 仁三郎

◎中間繩 年産額 六十万圓  
古くから荷造梱包用として縣下各郡に生産せられ、江沼、河北郡が主産地である、關  
東、關西を主とし朝鮮にも輸出せられて居る。

生産者 江沼郡動橋村

久保田 久右衛門

◎網の子繩  
胴綱、錨綱用として主として縣下珠洲、鳳至、鹿島郡に生産せられ、北海道、大阪、  
静岡等に販路を有して居る。

生産者 珠洲郡直村野々江

干場 銀作

◎網 繩 年産額 二万五千圓  
鱒、鯖、鱈等の大敷網用として古くから生産せられ、縣下鳳至、石川、鹿島郡を主産  
地とし、北海道、大阪、静岡、神奈川方面に移出せられて居る。

生産者 鹿島郡御祖村小田中

中村 仁三郎

◎肥料吹 年産額 十八万圓

肥料包装用として生産せられ、鳳至郡を主産地として、各郡に生産せらるゝが、主と  
して縣内に消費し北海道にも移出せられて居る。

生産者 鳳至郡柳田村鴨川

高 藤太郎

◎鹽 吹  
製鹽地なる珠洲郡に於て古くから製作せられ、概ね縣内に於て消費するが、尙北鮮、  
浦鹽にも輸出せられて居る。

生産者 鳳至郡柳田村鴨川

高 藤太郎

◎草 鞋 年産額 十万圓  
履物用として製作せられ、縣下各郡に生産せらるゝも珠洲、鳳至、羽咋郡が主産地で  
あつて、主として縣内供給に充てゝ居るが、北海道、樺太等にも移出されて居る。

生産者 能美郡寺井野村石子

前田 慶二

◎竹細工 年産額 十四万圓  
由來竹細工の製造は技工意匠の點に於て殆ど價值あるものを認めなかつたが、近時改  
良せられ、金澤市を主産地とし、能美、羽咋郡にも生産せられ、主として縣内自給に  
足るだけのものである。

生産者 金澤市英町

柿 小男太

◎和傘 年産額 四十七万五千圓

骨格に孟宗竹を用ひ、轆轤繫に婦人の髪毛を使用し、其堅牢を特長とし、金澤市を主産地として、北陸、關東、關西に移出して居る。

生産者 金澤市中野町

宮本 友吉

◎桐火鉢 年産額 二十七万圓

特殊の技工を誇り主として、金澤市に生産せられ、關東、關西の移出に止つて居たが、漸次販路各地に開拓せられて、現今では殆ど全國的となるに至つた。

生産者 金澤市尾張町

加藤 儀一郎

◎九谷焼 年産額 百二十万圓

慶安年中縣下江沼郡大日山麓九谷村の地に磁器用の原石を發見し、製陶の業を起し自來種々改良せられ、現今では能美郡金澤市に生産せらるゝに至り、縣下著名なる物産である、販路は全内國地に亘り、遠く北米にも移出せらるゝに至つた。

生産者 金澤市片町

谷口 吉次郎

◎鋸屑貼子人形 年産額 二万五千圓

金澤市に専ら生産せられ、關西、東北地方に盛に移出せられて居る。

生産者 金澤市尾張町

中島 鐵一

◎數字遊 年産額 八千圓

教育玩具用として金澤市に生産せられ、縣内の供給以外に關東、關西方面に移出せられて居る。

生産者 金澤市東馬場

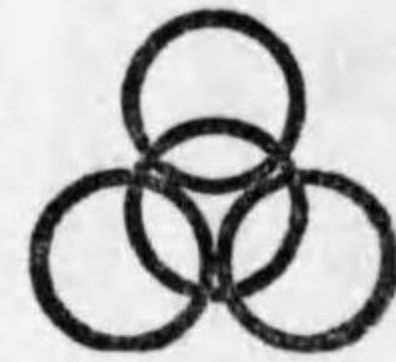
本吉 二

取扱種目 米穀、城端、大倉

越の白柿發賣元

四輪農業倉庫

有限責任  
販賣組合



越中福光驛前

電話一四九番  
發信略號(四)ハ又(ワ四)  
受信略號ツエ、フツワ四

金澤市特産品

桐火鉢組合

金澤市塔坂町七拾五番地

堀外喜次郎

金澤市石浦町八十番地

西村勝太郎

金澤市片町停留所前

篠原光吉

金澤市堅町四十四番地

組長 中川與三郎

電話二五五一

福井縣

◎管笠 年産額 七萬八千圓

丹生郡三方村、足羽郡社村を中心として古來より製造せられ、主として岐阜、愛知方面に仕向けしも、販賣改善を奨励せし結果、近時は滋賀、北海道方面へも販路を有するに至つた。

生産者 足羽郡社村種池

丹生郡志津村上天下

同 三方村杉谷

齋木彦市

土橋三津太郎

吉川新兵衛

◎蓑 年産額 一萬七千圓

足羽郡社村、遠敷郡今富村を中心に従來より行はれ、近時南條郡にも及び、主として縣内の需要に應せしも、最近丹後、北海道方面に販路を有するに至つた。

生産者 足羽郡社村江守中

遠敷郡今富村湯岡

江守中實行組合

井石久太

◎布帛加工 年産額 十三萬六千圓

縣下は輸出織物の大産地で、經濟的原料豊富なる爲、従來福井市を中心に加工せられ、

大正九年之が獎勵を開始し、大正十二年福井縣婦人工藝獎勵會を設立し、原料の共同購入、製品の販賣斡旋機關たらしめし結果、其販路も擴張し、現に東京、京阪、石川、九州及朝鮮方面へも一部の販路を有するに至つた。

生産者 足羽郡木田村

木田村處女會

同 東郷村

東郷村處女會

今立郡鯖江町中小路

小池 ちよ

福井市日ノ出下町

婦人工藝獎勵會

南條郡武生町蓬萊

廣場 治左衛門

◎麻織物 年産額 三十萬圓

福井市を中心し古來から家内手藝として製造せらる、販路は縣内、京阪地方である。

生産者 足羽郡木田村下馬

岩 佐 誓

同

岩 佐 彦右衛門

◎行李、バスケット 年産額 柳行李 二十一萬五千圓 バスケット 四萬四千圓

福井市を中心し明治三十二年以來獎勵の加はると共に丹生、足羽、今立の各郡に及び京阪、富山、東京市場にも販路を有するに至つた。

生産者 足羽郡六條村下荒井

中川 兄弟商會

足羽郡麻生津村淺水

南 部 勇 作

今立郡鯖江町下深江

清 水 松 吉

丹生郡立待村杉本

小 島 政 治 郎

同 天津村眞栗

上 山 春 吉

同 朝日村上川去

杞 柳 製品 組 合

同 天津村

高 橋 藤 左 衛 門

福井市福井驛北通

三 上 繁

◎眼 鏡 年産額 一萬五千圓

足羽郡麻生津村を中心し従來より行はれる。販路は名古屋、大阪、京都方面である。

生産者 足羽郡麻生津村生野

増 永 五 左 衛 門

◎藤 表 年産額 二萬九千圓

福井市を中心として明治四十四年より行はれ、獎勵の結果足羽、吉田、丹生郡に及び石川、北海道方面へ販路を有するに至つた。

生産者 足羽郡麻生津村花守

荒 井 さ だ を

同

荒 井 夏 枝

同

荒 井 し づ 子



同 荒井 わか  
 同 荒井 まき  
 同 杉本 ヒロ  
 同 鈴木 イッヲ  
 同 鈴木 鈴子  
 同 南部 すさの  
 同 河村 スミオ  
 同 福井市  
 同 丹生郡天津村  
 同 岡保村印田  
 同 吉田郡東藤島村重立

◎繩 年産額 三十五萬圓

坂井郡三國町を中心とし、早くより三國中間繩の名を以て北海道との取引行はれ、其後獎勵の結果、縣下の各郡に亘つて製造せらるゝに至つた。主なる販路は北海道なりしも最近京阪、東海道、朝鮮方面へも販出せらるるに至つた。

生産者 三方郡西田村田井野 赤尾 雄三  
 同 山東村佐田 辻井 乙吉  
 同 足羽郡下文珠村太田 江守 筆松  
 同 宮越 喜右衛門

坂井郡三國町平木  
 丹生郡吉川村下川吉

坂井郡輸出繩産業組合  
 齋藤 瀧 衛

◎麻苧及麻糸 年産額 一萬八千圓

福井市を中心に吉田、足羽、坂井、大野、丹生の各郡は殆ど數百年前より栽培加工せられしも、漸次工業の發達に伴ひ、代用品に壓倒せらるゝとは云へ、一面越前蚊張の原料として其の要求は尠くないのである。

生産者 足羽郡和田村上北野 南出 吉右衛門  
 同 和田中 吉村 正保  
 同 吉田郡圓山西村下中 橋本 長右衛門  
 同 北今泉 武澤 彌太郎  
 同 遠敷郡口名田村相生 木村 武右衛門  
 同 中井 上 伸 大竹 九兵衛

◎手 掃 年産額 六千五百圓

福井市を中心に古來より行はれ、其の主産地は足羽郡、吉田郡にして縣内の需要を充すに過ぎざりしも、獎勵の結果其の生産額増加し、最近北海道及群馬縣地方へ一部の

販路を有するに至つた。

生産者 足羽郡上文珠村北山

田中興作

同 吉田郡圓山西村丸山

北山農事實行組合

同 開發

齋藤音吉

同 新保

野川岩松

野路博彦

野路博彦

◎草鞋、草履 年産額 七萬圓

全縣下に亘り従来より生産せられしが、近時代用品の製造盛となり、漸次衰退せしむ雖、尙北海道方面に毎年多額を販出して居る。

生産者 遠敷郡遠敷村遠敷

鳥羽榮太郎

三方郡耳村南市

森山りん

同 市岡

岡崎イツ

吉田郡下志比村谷口

波多由太郎

◎木炭 年産額 四百萬圓

従前より縣内各郡に生産せられしが、明治二十八年頃鐵道開通の結果、横濱、東京、近畿、名古屋の諸地方に販路拓け、最近各地市場にも販出されて居る。

生産者 南條郡武生町壽

田中嘉市

遠敷郡小濱町

若狭木炭同業組合

◎蕨 年産額 四十四萬圓

敦賀郡を中心として早くより北海道との取引拓けしと獎勵の結果、殆ど各郡に生産するに至り、主として北海道、東海道、京阪、北鮮に亘り販路は益々擴張するに至つた。

生産者 敦賀郡敦賀町蓬萊

敦賀郡蕨工品組合

吉田郡東藤島村間山

山田一

三方郡八村南前川

南前川産業組合

遠敷郡小濱町

田中長治郎

◎竹細工 年産額 十五萬圓

今立郡北中山村、吉田郡松岡村、坂井郡芦原村、南條郡神山村では従来より製造し來りしもので、京阪、東京、石川、愛知方面へ販出されてゐる。

生産者 吉田郡杉岡村室

三國吉

同 坂井郡金澤町

竹内與三右衛門

同 同

三谷甚松

金澤箕製造組合

今立郡北中山村下戸口

同

中戸口

野原牧野

野原金治

三好五太郎

土橋仁作

宮崎吉太郎

中戸ノ口竹製品信用購買販賣利用組合

南條郡神山村澤

福井市佐佳枝下町

坂井郡三國町臺

◎鹽表、莫産 年産額 鹽表 八萬九千圓 莫産 八萬五千圓

從來福井市を中心として古くより行はれしも、大正六年以來縣の獎勵と共に其の製造盛となり、現今は吉田、丹生、大野、遠敷、大飯の各郡に及び、京阪、東京、富山に其販路を有するに至つた。

生産者 吉田郡岡保村堅達

丹生郡豊村漆原

同 白山村都邊

酒井増太夫

笹本薫

辻 權右衛門

◎白 錫 年産額 十二萬二千圓

從來沿海各郡に製造せられしが、明治四十年頃より京阪、神戸地方へ販出するに至り、最近東京市場にも販路を有するに至つた。

生産者 大飯郡高濱町

同

坂井郡鷹巢村

丹生郡國見村鮎川

同 越廼村蒲生

横田 瀧藏

川端 新吉

鷹巢漁業組合

長谷川 仙太郎

横井 七三郎

◎釣 鈎 年産額 五千圓

明治二十年頃大飯郡和田村で其の製法を改良し、大正九年以來漁家副業として獎勵せしも、尙縣内消費を充たを得ず、毎年兵庫縣より購入するの状況である。

生産者 大飯郡和田村

和田 漁業組合

◎眞 綿 年産額 五萬圓

古くより行はれしも、其の改良獎勵を加へしは明治四十四年にして、其の主産地は大野、吉田、今立、丹生、南條の各郡で、主たる販路は京阪地方である。

生産者 今立郡鯖江町東小路

丹生郡糸生村小倉

今立郡南中山村野岡

南條郡武生町蛭子

山本 素位

安井 シヅ

小林 覺平

松成 ツル

◎蟹籠詰 年産額 二萬二千圓

明治三十年頃より福井市にて創始せられ、漸次武生町、丹生郡三國町各地に生産せられ、全國樞要の都市に販路を擴大し、顧客を有するに至つた。

生産者 丹生郡四ヶ浦村新保

相木 嘉一

同 城崎村厨

上田 千代三郎

同 福井市佐久良上町

今川 吉太郎

同 佐佳枝中町

伊藤 八郎

松成 榮三郎

◎雲 丹 年産額 五萬圓

從來沿海各郡に生産せられ、明治二十年其の製法に改良を加へしより漸次其の品質を向上するに至り、主として關東、關西に仕向けしが、最近支那方面に販路を有するに至つた。

生産者 坂井郡三國町今新

多田 甚吉

福井市佐久良上町

伊藤 八郎

福井市佐佳枝中町

松村 榮三郎

◎製 茶 年産額 三十萬圓

坂井郡金津町を中心に、嘉永五年宇治製茶法の傳習を受しに始まり、大正二年以來獎勵の結果、今立、南條、大飯の各郡に及び、現在は静岡、長野、石川、京都方面に販路を有するに至つた。

生産者 坂井郡加戸村池上

近藤 門藏

同 今立郡味真野村野大坪

近藤 六右衛門

同 栗田作治郎

増田 金之助

南條郡今庄村

今庄村茶業組合

◎帖 紙 年産額 一萬六千圓

延喜年間の創始に罹り、大野郡、遠敷郡、坂井郡に於て製造せられ、静岡、三重、京阪地方に販路を有してゐる。

生産者 大野郡大野町

飯田 石松

同 遠敷郡中和田村和多田

芝 謹三郎

同 木崎岩七

木崎 岩七

◎若女籠詰 年産額 三千圓

明治十七年の頃より敦賀町に創始せられ、福井市、敦賀郡、坂井郡に生産し、販路は

名古屋、東京、大阪方面である。

生産者

坂井郡三國町今新

多田甚吉

福井市佐久良上町

伊藤八郎

同 佐久良中町

松成榮三郎

◎煮き雑魚 年産額 九萬四千圓

明治初年より敦賀郡に産し、漸次若狭一圓に生産せらるに至り、關西方面に仕向けしも、益々販路は擴張せられてゐる。

生産者 敦賀郡松原村

松原漁業組合

◎苗 蓮 年産額 一萬圓

従來大野郡西谷、五ヶ村を中心として生産せられて居たが、明治廿八九年頃より漸次擴張し、同郡上庄村、坂谷村地方に及び、縣内は勿論支那へも販路を有するに至つた。

生産者 大野郡大野町

飯田石松

### 山梨縣

◎糸織苧 年産額 三萬九千七百圓

養蠶飼育上必需品なれば、農閑季節中之れが製作は最も有利な事業と認め、東山梨郡八幡村は明治初年自家用として製造に従事した、爾來逐年養蠶業の發達に伴ひ、一般に之れが需要の適切なるを認めて遂に販賣品として市場に搬出するに至つた、然れども生産者は何れも在來式を使用して其の功程少ければ、之れが改良を促かす爲講習會の開催並に改良製苧機の購入に對し、獎勵の結果中巨摩郡南湖村及龍王村其の他の二三の町村に及んで、今では副業組合の事業として生産するに至つた。

生産者 中巨摩郡南湖村

南湖副業組合

◎農用苧及荷苧 年産額 農用苧 七萬五千六百八十圓 荷苧 七千四百圓

苧の開始は其動機は不詳なるも、従來薪炭業に依り生活の一助となし來た地方の内西山梨郡相川村及大宮村は明治四十三年山林の大部分恩賜縣有財産に編入し、其の入山困難となりし爲め、他に副業を求むべく研究の結果、自家生産の稻稈を利用し苧の製作に努め、漸次其技術向上し、年一年に市場搬出の分量増加し、今や長野、兵庫等に販路を有するに至つた。

生産者 西山梨郡相川村

同

數野親藏  
中澤新七

◎繩 年産額 二萬五千圓

從來西山梨郡大宮村を中心に生産せしが、主として自家用に止つて市場に搬出するもの僅少であつた、近來製繩器利用を奨励の結果、産額益増加し最近中巨摩郡玉幡村及東山梨郡英村に藁細工副業組合を組織し、専ら斯業の改善發達に努め大量取引を行ふに至つた。

生産者 中巨摩郡玉幡村

西山梨郡相川村

玉川製繩副業組合  
梅澤三代吉

◎乾柿 年産額 十一萬九千圓

乾柿は古來良品を製し、其の種類は百目柿、蜂屋、衣紋柿等で、加工の術も往古より發達し、江戸時代より甲斐の特産として名あり、明治三十九年縣の奨励に依り、山梨果實同業組合を設立し、種苗の配付乾柿製法の講習會開催等に努め、大に斯業の發達を促し、今や東京、名古屋、大阪、神戸等に販路を有するに至つた。

生産者 中巨摩郡御影村

東山梨郡松里村

小澤徳藏  
小島嘉七

◎搗栗 年産額 五萬七千六百圓

搗栗製造の開始は傳説に依れば、武田信玄國守當時大に奨励し、搗栗を軍用に供せしといふ、又慶長三年淺野長政國守たりし際も第二回の奨励を爲し、爾來漸次製造に改善を加え、今日の盛況を見るに至つた、販路は主として東京、横濱である。

生産者 東山梨郡松里村

同

廣瀬重利  
小島嘉七

◎葡萄 年産額 九十六萬圓

葡萄の栽培は往古祝村雨宮勘解由上岩崎の山中で異種の葡萄を發見し、之を宇城止寺と稱する地方に移植試培に起因す、斯業の中心地勝沼町は慶長六年祝村より分植し、正徳五年頃は約五町歩の栽培を見、爾來漸次其の繁殖に努め、明治十四五年頃更に西洋種の移植を試しみに比較的美味なれば、葡萄酒醸造の原料として其の用途廣く、販路も益々擴張し、今や全國に行き渉るに至つた。

生産者 東山梨郡勝沼町

同

海野金作  
雨宮藤作

同

雨宮伊七

同

高野好太郎

東山梨郡勝沼村

東八代郡祝村

同

三森龍藏

金井徳重

宮崎光太郎

◎御所柿 年産額 二萬四千九百圓

往古西八代郡豊和村を中心に生産せしも、西山梨郡玉緒村字國里村は斯業に適切なる地方である、數年前より銳意増殖に努めし結果、近來其産額著しく増加し、之れが販賣は有限責任國里信用購買利用販賣組合専ら其の經營に努め、最近神戸、大阪、名古屋方面に販路を有するに至つた。

生産者 西山梨郡玉緒村

有限責任國里信用購買利用  
販賣組合

◎椎茸 年産額 二萬圓

椎茸の栽培は今より六十年前、西八代郡古關村釜額と稱する部落に於て、遠州地方より斯業に熟達せる者を傭聘して、斯業の栽培に着手せるが創始である、其後縣下適切な地方を撰定し屢々講習講話會を開催し、益斯業の發達を促がしたる結果、其の産額年一年に増加し、年々大部分静岡方面に取引が行れる。

生産者 西八代郡古關村

赤池繁博

南巨摩郡本建村

望月維千

◎山葵 年産額 三萬五千圓

從來北都留郡小管村を中心に栽培し、其起源は約三百年前で、獎勵の結果西八代郡大河内村、南巨摩郡睦合村及吉岡村等に及び、専ら東京、静岡方面に販路を有し前途益有望である。

生産者 北都留郡小管村

奥秋松次郎

◎葡萄酒 年産額 二萬圓

葡萄酒の生産は最近で、數年前は生葡萄酒を販賣せしが、其の賣行不振の結果液の製造を努むるを有利と認め、漸次其の生産を増加し各府縣に其販路を擴張した。

生産者 東八代郡石和町

久保田宣朔

同 祝村

宮崎光太郎

◎眞綿 年産額 四萬六千圓

從來東山梨郡岩手村を中心に、幕末の頃創始せられしが漸次發達し、明治四十三年より獎勵の結果、一層之れが必要を認め、現に適切な町村を撰定し、専ら之が指導に努め逐年發達の狀勢を示すに至つた、販路は近來長野、静岡を主とし、近來取引は東京方面に行はれる。

生産者 東山梨郡岩手村

古屋八藏

東山梨郡岩手村

中村 惠 朔  
藤原 甚 兵 衛

同

◎下駄表 年産額 十五萬三千八百圓

從來東八代郡一宮村及中巨摩郡大井村を中心に、明治初年頃より創始せしが斯業の有  
利なるを認め、漸次技術の向上と販路の擴張を圖り、今や東京、横濱及び關西地方に  
も取引行はれ、益々發展の域に達して居る。

生 産 者 中巨摩郡大井村

東八代郡一宮村

中村 竹 次 郎  
宮 下 鶴 吉

◎箕 年産額 三萬圓

箕の起源は徳川時代で、其の動機詳かならず、然れども生産地の西八代郡富里村は大  
部分山林として、耕地少なく積雪の候は何等事業の途なきを憂ひ、種々研究の結果隣  
接せる富士山麓に生産せる篤竹を原料として、箕を製作するを適切と認め、同村北川  
及隣村古關村丸畑に及び縣内に販賣せしが、近年神奈川縣にも販路を擴張した。

生 産 者 西八代郡富里村

長 畑 副 業 組 合

◎雨 傘 年産額 四萬七千二百圓

從來南巨摩郡楸澤町を中心として、明治初年頃より創始せられしが、獎勵の結果、共

同組織となし、縣内及静岡方面に仕向をなし、専ら販路の擴張に努めてゐる。

生 産 者 南巨摩郡楸澤町

楸澤製傘副業組合

◎箒 年産額 七千四百圓

從來中巨摩郡龍王村及忍村を中心として生産せしが、其産額頗る僅少であつた、隣村  
百田村の有志之れが有利を認め、同志を募り明治四十三年より研究に努力し、爾來市  
場に搬出して稍々成績を挙げしも、個人經營の不利なるを認め、最近組合を組織し、  
益々販路の擴張に努めてゐる。

生 産 者 中巨摩郡百田村

上八田等副業組合

◎寒 天 年産額 十八萬圓

從來北巨摩郡鳳來村の内字大武川の生産で、大正元年頃の創始で、長野縣又は兵庫縣  
に仕向中である、其の産額益増加の傾向を示してゐる。

生 産 者 北巨摩郡鳳來村

名 取 峯 吉

◎箒 年産額 十九萬四千四百圓

主産地は南都留郡小立村、勝山村、船津村、鳴澤村等の諸村で、事業開始の動機は往  
古より地方人の隣縣に行商するもの多く、偶々静岡縣三島地方に於ける竹細工の有望  
なるを認め、富士山麓に繁茂する篤竹を利用して箒の生産に努めたるに始まる、漸次



技術の研究に努め、其の需要著しく増加し、地方特産品として社會に認めらるゝに至つたが、最近縣の獎勵に依り組合を組織し、大に販路の擴張を圖つて居る、然して目下の販路は主として東京、横濱、神奈川縣等である。

生 産 者 南都留郡勝山村

甲州策生産副業組合

◎箸 年産額 六千五百圓

箸の開始は詳らかでないが、古來より南都留郡西湖村字根場の副業として行はれ、其の需要年一年に増加し、漸次大量の取引行はるゝに當り原料の共同購入製品の統一等時代の要求に伴ふて共同組合を組織せられ、生産の増加と販路の擴張に意を注ぎ、今や縣下は勿論東京方面に仕向られてゐる。

生 産 者 南都留郡西湖村

根場箸副業組合

◎座繰生糸 年産額 二萬二千九百九十貫 此加工賃銀 三十一萬四千九百圓

本業の工賃副業は安政年間より縣下各郡にて開始し、養蠶業の發達と機業地の發展に伴ひ、其製産逐年増加すると共に、俸給生活者及勞働生活者等の家庭に於ける従業者益増加し、其生品は甲斐絹糸原料として大部分甲府市に集まり、同市多數問屋の手を経て、縣下南、北兩都留郡の機業家に販賣せられて居る。

生 産 者 甲府市三日町

新 田 啓 甫

◎木 炭 年産額 百三十四萬六千圓

從來山地農家の副業として縣下各郡に於て製炭せられしも、交通機關の稍々完備せるに伴ふて、縣外移出額年々増加し、製炭法の改善と取引上の信用を向上せし爲、販路を擴張し、同業組合の設置を見、斯業益發達して居る。

生 産 者 北都留郡大原村

北都留郡木炭同業組合

◎甲斐絹 年産額 二千五百五十三萬三千五百圓

甲斐絹は古來郡内の物産で、其起原は遠く昔に胚胎し、其の發達の沿革は知るを得ざるも、交通機關の整備に伴ふて、甲斐絹業の革新は既に其端を啓き、近年大に面目を改め、産額の増加と共に生産區域も擴大し、織物の種類も亦増加し、今や長足の發達を遂げ、現に東京、京都、大阪、名古屋及東北地方及北海道其の他滿鮮、支那、印度、濠洲等の海外に輸出するに至つた。

生 産 者 南都留郡谷村町

南都留郡甲斐絹同業組合

北都留郡大原村

北都留郡甲斐絹同業組合



山梨縣熱澤町  
熱澤製傘副業組合

和傘界の霸王

時代の的合した……  
優美をして且實用と経済の美を兼ねた  
理想的の雨傘




最モ改善セル出荷組合

品質検査 量目ノ正確  
荷造ノ統一 價格ノ低廉

甲州葡萄

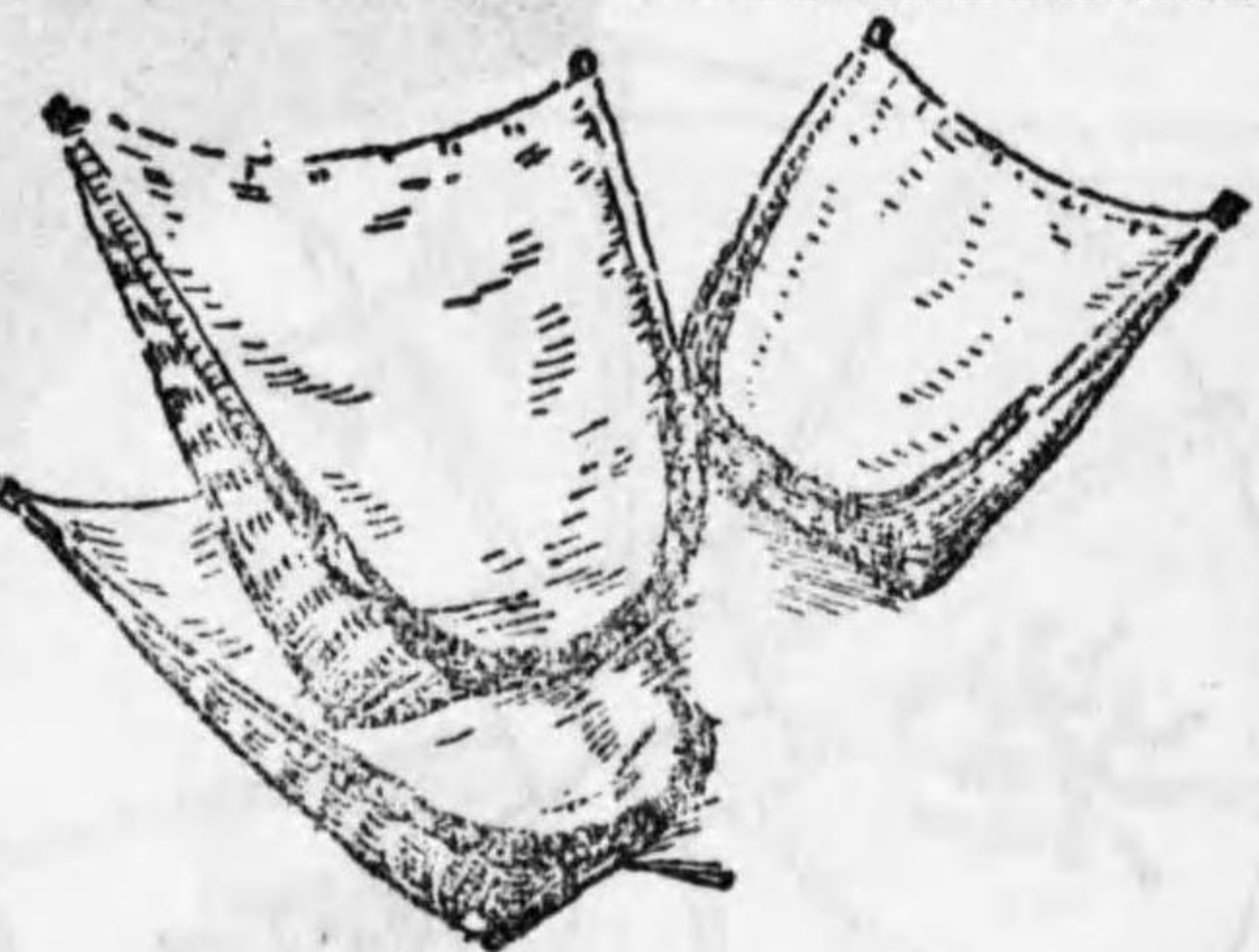
生産者ヨリ  
直接需用者へ

甲府果實栽培組合  
甲府市及所内

農家の一日もなくてならぬ。

箕價格

大金八拾錢  
中金五拾錢  
小金三拾五錢



此の外望みに依りて  
値段の差があります

しなやかにて、つかいよき箕であります。  
つかつて御試し下さい。

山梨縣西八代郡

長畑副業組合

毎月一回一日發行

月刊雜誌

副業

一部定價三十五錢

副業を經營される方にも、研究される方にも、有益なる好資料を毎號掲載します。

東京市麹町區内山下町一ノ一

發行所 日本産業協會

振替東京三六六六〇番

長野縣

◎蕨 年産額 三千圓

南佐久郡白田町及長野市、松本市附近の農村に於て製産し、製糸場其他縣内の需要を主とせるものである。

生産者 南佐久郡白田町

住吉製蕨組合

◎壘 年産額 九萬圓

下水内、南安曇、更級郡を主産地とし、専ら縣内に需要せられつゝありしも、耐濕性あるを以て海岸地方に適し、近年縣外移出を見るに至つた。

生産者 南安曇郡穂高町

壘表改良組合

同 倭村

大妻表改良組合

同 南穂高村

南穂高壘表改良組合

同 高家村

壘表改良組合

下水内郡常盤村

小坂告治

同

松山英一郎

更級郡鹽崎村

長谷壘表生産販賣組合

◎蜀黍等 年産額 十四萬圓

東筑摩郡芳川村地方最盛にして、下高井郡平岡村、下水内郡常盤村次で生産多し、近年著しく發達し、新潟縣、北陸地方、關西地方等へ販路擴張せられ實用向として歡迎せられて居る。

生産者 東筑摩郡芳川村

有限芳川信用購買販賣組合

下水内郡常盤村

常製造販賣組合

下高井郡平岡村

平岡常製造組合

◎杞柳及杞柳製品 年産額 杞柳 二十萬圓 杞柳製品 十七萬圓

杞柳は下高井郡延徳村を中心に、同郡平野村、上高井郡、上水内郡の千曲川氾濫の影響を蒙る地方に栽培せられ、岐阜縣、兵庫縣其他へ多量に移出販賣して居る、其製品は下高井郡延徳村を主産地とし、上高井、下水内、北佐久、長野市等にも普及した、行李、バスケットを主とし縣内及縣外に販賣して居る。

生産者 下高井郡延徳村

黒崎 又三郎

同

信州杞柳製品組合

同

小林 政太郎

同 中野町

柳澤 禮太郎

同 豊郷村

萩原 才治

下水内郡常盤村

常盤村杞柳加工組合

北佐久郡岩村田町

猿久保杞柳生産販賣組合

長野市横澤町

田中 喜一郎

◎疊糸 年産額 四十八萬圓

上水内郡西山部十數ヶ村は大麻の産地で、此地方農閑副業として疊糸を製造す、質強韌なるを特長とし、東京其他關東、東北、東海道、九州に亘つて需要が多い。

生産者 上水内郡北小川村

松尾 宗輔

長野市西ノ門

風間 又右衛門

◎果實及加工品

主産地

萃 果 年産額 五十萬圓

上水内郡、更級郡、北安曇郡、長野市

生 柿 同 八十一萬圓

東筑摩郡、下高井郡、下水内郡、上伊那郡、更級郡

干 柿 同 二十三萬圓

小縣郡、北安曇郡、下伊那郡

葡萄及梨 同 四十五萬圓

東筑摩郡、長野市

菓子胡桃 同 八萬圓

小縣郡、北佐久郡

生 杏 同 十五萬圓

埴科郡、上水内郡、更級郡

干 杏 年産額 十二萬圓  
果實シヤム 同 五十八萬圓

同 長野市、北佐久、更級、埴科、上水内

◎ 萃 果 善光寺土産品として販賣するものが多かりしが、近年關西、關東方面へ移出販賣するやうになつた。

◎ 柿 主として關西に移出し、干柿は獎勵の結果品質著しく改良せられた。

◎ 葡 萄 善光寺葡萄は世に定評あり、又東筑摩郡桔梗ヶ原地方は葡萄の栽培に好適し、産額増大し、東西兩市場に供給して居る。

◎ 菓子胡桃 未だ産額多からざるも近年需要増加に伴ひ、栽植するものが増加した。

◎ 杏 本縣の特産品で、其生産額も逐年増加し。品種の改良獎勵の結果優良種の普及を見んとし、之が加工品も又漸次改良増殖せられて居る。

◎ 果實加工品

縣下の果實加工品は、杏製品を主とし、栗、莓、桃等之に次ぐ。

萃	果	栗田儀重郎
同	同	大正果樹園宮澤長治
同	同	和合果樹園紀浦次郎
同	同	内山源三
同	同	丸山正次
同	同	更級郡園藝組合
同	同	小林清治
同	同	福井兵一郎
同	同	平林秀吉
同	同	清水鎮雄
干	柿	親田信用販賣購買組合
同	同	串原源市
同	同	酒井安
同	同	伍和製柿販賣組合
同	同	伍和村
同	同	市田村
同	同	下伊那郡下條村
同	同	常盤村
同	同	北安曇郡大町
同	同	共和村
同	同	更級郡篠ノ井町
同	同	若槻村
同	同	上水内郡神郷村
同	同	長野市往生寺
同	同	上松



生 山 葵

南安曇郡穂高町

丸山伊七

同 同

同

平林多源次

同 同

同

高橋四郎

山 葵 漬

同

等々力亮一

同 同

同

淺川源吾

同 同

同

宇留賀道茂

同 同

同

等々力龜一

同 同

同

矢ノ口末一

同 同

同

高橋貞一

同 同

同

宇留賀嘉惣治

同 同

東筑摩郡中川手村

倉科多策

山 葵

下水内郡外様村

足立千代吉

◎薬用人参 年産額 三十六萬圓

信州特産薬用人参の主産地は南佐久、北佐久、小縣三郡で、同業組合を組織して技術員を置き、調製上の改良と製品検査の施行、栽培組合の奨励と相俟つて著しく改善發達を見、大部分は支那方面へ輸出して居るが、近年國內の需要も漸次増加し、其栽培

も次第に擴張の趨勢である。

生 産 者

南佐久郡中込町

信濃蔘盛株式会社

北佐久郡協和村

岩下八太郎

同 青日村

市川米藏

小縣郡東内村

櫻井益一郎

同 武石村

山本茂作

同 依田村

高田藤太郎

同 長窪古町

小山九市

同

龍野甫

◎凍豆腐 年産額 四十萬圓

從來地方需要の生産に過ぎざりしが、改良製造法を奨励の結果、各地に普及し縣外移出漸次増加し、十四年度凍豆腐業組合、縣聯合會を組織し、製品の改良統一と、販路の開拓を圖る計畫なれば、今後發展大に見るべきものがあらうと思はれる。

生 産 者

南佐久郡南相木村

凍豆腐製造組合

同 野澤町

田村文平

上伊那郡中箕輪村

上伊那郡凍豆腐製造組合

上水内郡七二會村  
東筑摩郡

七二會凍豆腐製造組合  
東筑摩郡凍豆腐製造組合

◎蜂 蜜 年産額 八萬五千圓

本縣は養蜂に好適し、副業的に飼養するもの全縣下に亘り、漸次増加の傾向で、東筑摩、西筑摩、下伊那の諸郡地方が最盛で、生産蜜は主として東京方面へ販賣して居る。

生産者 長野市城山

城山養蜂團

松本市榮町

日本アルベス養蜂協會

東筑摩郡里山邊村

花岡千榮

西筑摩郡福島町

吉田彦造

下高井郡平岡村

海谷貫一

◎白木箸 年産額 六萬五千圓

下高井郡平穩村を以て主産地とし、諏訪郡、南佐久郡、下伊那郡等に産し、關東、東北、北海道方面に販賣して居る。

生産者 下高井郡平穩村

南佐久郡畑八村

諏訪郡泉野村

有限責任沓野區林産物購買販賣組合  
割箸製造販賣組合  
泉野割箸組合

◎木 櫛 年産額 十二萬二千圓

木曾名産「お六すき櫛」は西筑摩郡木祖村の産で、關東、東北、東海道に販路を向けられて居る。

生産者 西筑摩郡木祖村藪原

同

同 檜川村

平田豊助  
黒木半藏  
原金彌

◎竹細工 年産額 五十一萬圓 内副業生産 二十萬圓

竹製品として行李は松本市及附近農林に於て盛に製造せられ、其他全縣下に亘つて日用家具類の製作が行はれて居り、竹行李の外養蠶用其他策類製糸場に使用する繭籠類は縣外へも移出販賣されて居る。

生産者 松本市

小縣郡豊里村

諏訪郡米澤村

東彦一郎  
中吉田竹細工組合  
野澤良智

◎木 炭 年産額 一千二百萬圓

縣内一般に亘つて生産せられ、殊に上、下伊那、東、西筑摩、上、下高井、上、下水内の各郡に多量に産して居る。縣内は勿論、京濱、群馬、名古屋、大阪方面に移出し



漸次聲價を高めて居る。

生産者

南佐久郡臼田町

南佐久郡木炭同業組合

下伊那郡飯田町

下伊那郡木炭同業組合

下高井郡中野町

高水木炭同業組合

北安曇郡大町

縣友一郎

西筑摩郡福島町

木曾木炭同業組合

◎木通蔓細工品 年産額 十八萬圓

縣下の木通蔓細工は下高井郡野澤温泉に創始せられ、同地最も盛んで、下水内郡、長野市等は之に次ぐ、一時海外輸出により隆盛であつたが、現在は主として内地向のものを生産し、近縣は勿論殆ど全國に亘つて取引せられて居る。

生産者

下高井郡豊郷村

野澤温泉

同

小林熊治

同

田中和三郎

同

富井宇平治

同

萩原才治

同

片桐良一

下水内郡飯山町

高柳仁助

◎鯉及其加工品 年産額 百萬圓 内稻田養鯉 六十五萬圓

本縣の養鯉は南佐久郡野澤、櫻井地方最も發達し、下伊那、上伊那、諏訪、東筑摩、南安曇、埴料諸郡に相當の生産があり、加工品は最近の試みなれど好評あり、研究改良を圖らば一大産物たるの見込は充分である。

生産者

鯉

南佐久郡野澤町

野澤町農會

鯉加工品

同 野澤町米牛

春原米太

◎玉生絹 年産額 四萬五千疋 四十三萬圓

繭糸副業として最も有望で、奨勵の結果近年著しく發達せり、原料玉繭の生産豊富なれば今後益々發展の見込である、現今の主産地は小縣、埴科、更級各郡地方である。

生産者

小縣郡中鹽田村

矢幡忍

同

甲田守人

◎真綿及其加工品 年産額 真綿九十萬圓

真綿は長野、松本、上田、諏訪、上伊那方面に生産多く、善光寺を初め遊覽地、温泉場等縣内にて土産品として販賣額も相當にあり、更に縣外各地へ移出販賣して居る。

眞綿加工品 上田、更級、長野郡市地方の生産多く、内地は勿論北海道、樺太、朝鮮等に亘つて取引されて居る。

生産者 長野市

長野眞綿株式會社

松本市東町

田中茂吉

小縣郡依田村

内堀いねみ

同 西鹽田村

金澤たみ

◎和紙 年産額 八十萬圓 内桑皮紙 十萬圓餘

縣下下高井、下水内兩郡に産する内山紙は生漉にして品質堅牢にして己に定評あり、其他下伊那、北安曇、東筑摩諸郡も盛んに生産して居る、桑皮紙は廢物たる桑皮を利用して製造せるもので、其の質の堅牢、耐水性の強きこと等他の和紙の及ぶ處にあらず、北安曇郡社村を主産地として東筑摩郡其の他に普及しつつあり、今後尙發展する傾向がある。

生産者 下高井郡瑞穂村

吉越大助

同

湯越鉞太郎

同

山崎繼治

同

高山義勝

下水内郡太田村

高橋森作

同

三ツ井清壽

同

野口謙三

南佐久郡小海村

土橋嘉市

小縣郡長窪古町

立岩製紙業組合

下伊那郡松尾村

仲村龜藏

同 久堅村

松枝豊一

同 龍江村

田中幸太郎

同 下久堅村

宮内次郎

東筑摩郡日向村

山寺製紙組合

北安曇郡社村

有限責任北安曇郡製紙販賣  
購買利用組合

◎水引 年産額 五萬五千圓

縣下下伊那郡に於て生産す、東京、北海道、關西各方面に販賣して居る。

生産者 下伊那郡龍丘村

信州水引製造共同販賣組合

◎手工藝品 年産額 六千圓

農民美術は小縣郡神川村を中心に、縣獎勵に技術を傳習せるものが組合を組織して製

作販賣をなし、十四年春日本農民美術研究所内(小縣郡神川村大屋)に之等生産組合の聯合會を組織して事業の發展を謀り、尙縣主催講習會を二ヶ所に開催せらるれば今後著しい生産の増加を見るであらう。

生産者

各種農民美術製作品

- 小縣郡神川村大屋 日本農美生産組合
- 北佐久郡小諸町 淺間山農美生産組合
- 下伊那郡下川路村 下川路農美生産組合
- 南安曇郡有明村 日本アルペス農美生産組合
- 北安曇郡北城村 白馬農美生産組合

◎婦人手藝品  
長野市内の家庭副業として行はれつゝあるもの毛糸編物、ミシン裁縫、刺繡、毛糸人形等であつて、地方需要は勿論縣外に移出版賣せるものも少くない。

生産者

- 長野市 長野市家庭副業組合
- 同 末廣町 長谷川 稔

◎傘 年産額 二十五萬圓

下伊那郡喬木村を中心に生産せられ、番傘が主なるもので、實用向として需要が多く、

生産者

- 下伊那郡喬木村 市 瀨 八 重
- 同 市 瀨 元 太 郎 齊
- 同 同 有 賀 槌 之 助
- 同 同 市 瀨 喜 傳 次
- 同 同 三 石 誠 一 郎
- 飯田町

先年同業組合の組織成りて事業の改善發達を圖つて居る。

◎鎌 年産額 三十萬圓餘

信濃鎌の産地は上水内郡古間、柏原地方で、製品は全國に亘つて販賣せられて居る。

- 生産者 上水内郡古間村 大 澤 源 治
- 同 同 本 山 富 藏
- 同 同 奥 戸 辰 藏
- 同 同 山 田 正 吉
- 同 同 佐 藤 文 治
- 同 同 關 藤 秀 治
- 同 同 寺 田 元 男
- 同 同 高 野 對 助

信越中央分岐點たる篠井を中心とする天與の園藝地より生産する苹果柿、牛蒡、甘藍及鶏、鶏卵を直接消費地へ品質の精選完全なる荷造りに依つて出荷致します。

長野縣更級郡篠井町

### 更級郡出荷組合

電話篠井一五番  
電略 サラ

#### 出荷品目

△苹果 祝旭、紅玉、倭錦、國光  
△柿 蜂屋、御所、小平治、小練  
△蔬菜類 牛蒡、甘藍、馬鈴薯  
△家禽類 鶏、鶏卵

#### 營業科目

内 果樹苗専門  
庭園用樹苗  
觀賞植物  
球根類  
園藝器具

長野市横澤町

#### 長原養果園

園主 長原義英  
振替口座長野四〇九五番

果樹苗ハ信州ノ名産、杏、善光寺ブドウ等多數有之剪定缺ハ優秀ニシテ低廉ナル品豐富ナリ何卒一度御下命ノ上弊園ノ信用ヲ御認メ下サイ

(カタログ進呈ス)

## 岐阜縣

◎雨傘 年産額 四百萬圓

従來稻葉郡加納町を中心にして、岐阜市及其附近に製造せられ、其起原は遠く寶永年間に屬し、其生産が分業的になり、現今では一本の雨傘は三十餘の分業的生産者の手を経て完成する有様である、販路は東京、横濱、名古屋、大阪、京都、神戸の主要都市を始め殆ど全国的に移出を見るに至つた。

生産者 稻葉郡加納町

惠那郡坂下町

有限責任加納信用購買販賣  
利用組合  
吉村 源之助

◎傘骨 年産額 百萬圓

傘製造増加に伴て傘骨の製造高も増加し、近時之が製造機械の發明によつて、簡單に製作し得る様になつたので、稻葉郡加納町を中心とし、岐阜市、稻葉郡、本巢郡、武儀郡地方に亘り副業的に製作を行ふものが増加した。

生産者 稻葉郡加納町

同 三里村

有限責任加納信用購買販賣  
利用組合  
堀 辰次郎

◎蜂蜜 年産額 五萬二千圓

明治四十年以來紫雲英主產地たる本巢郡、安八郡及び羽嶋郡、岐阜市方面に養蜂が盛に行はれ一時頓に流行を見しも、其後一時衰退せしも現在は全く採蜜方針に依る堅實な養蜂の經營に推移して居る、販路は東京、大阪、富山、朝鮮等である。

生産者 羽嶋郡柳津村

小野 宗次郎

◎木炭 年産額 二百三十一萬四千八百四十九圓

楫斐郡、郡上郡を中心に、縣下山間農村に普及し、黒炭、白炭各半額の割合で生産して居る、縣は製造方法改良の爲明治三十六年度より年々教師を派遣して、之が指導に努めし結果、品質遂次改善した、販路は愛知、富山、京都、大阪、東京方面に開け、相當多額の移出を見るに至つた。

生産者 養老郡一之瀬村

桐山 庄内

郡上郡川合村

宗廣 瀧五郎

◎和紙 年産額 二百四十七萬八千三百九十三圓

古來美濃紙として市場で宣傳せられつゝある古き歴史ある和紙は、武儀郡下牧村を中心に、同郡内附近町村及山縣郡富波村、楫斐郡坂内村、惠那郡坂下町、吉城郡河合村や其他で生産せられ、之が品質の向上と生産組織の改良に付て指導奨勵を加へられて居る、販路は東京、横濱、名古屋、京都、大阪、三重縣及北陸地方にして、コッビー

紙、典具帖は神戸、横濱を経て歐米に輸出せられて居る。

生産者 山縣郡富波村

堀井 幸三郎

武儀郡下牧村

五十川 又一郎

同

古田 久四郎

同

◎行季、バスケット 年産額 三十五萬千八百七十二圓

明治二十三四年頃より本巢郡生津村を中心に創始せられしも、現今同郡穂積村、合渡村、岐阜市、大垣市其他に普及し、東京、横濱、名古屋、京都、大阪其他に販賣せられてゐる。

生産者 本巢郡牛牧村

廣江 正行

同 穂積村

豊田 源市

◎杞柳 年産額 二十一萬七千九百九十七圓

明治二十二年京都府下福知山附近より苗木を取寄せ、本巢郡生津村に之が栽培を開始し、次第に栽培反別を増加し、同郡は勿論安八、養老、羽嶋、海津、稻葉、不波、楫斐、山縣の各郡に亘り、二百餘町歩の作付を見るやうになつた、販路は縣内杞柳細工業者を主とし、剩餘は之を兵庫縣に移出してゐる。

生産者 本巢郡牛牧村

森 三之助

◎竹細工 年産額 十六萬五千九百十八圓

從來安八郡下宮村にて明治廿年前後より箕、各種籠箆類を生産してゐたが、其後美術的籠類の生産を見るに至り、尙又大正七年以降之が製作獎勵の結果、楫斐郡鶯村を始め、縣下各郡は之が製造を行ふに至つた、仕向地は名古屋、大阪、北海道である。

生産者 安八郡下宮村

和藤 清二

同

吉田 繁松

同 楫斐郡鶯村

高田 仁作

同

鳥本 憲作

同

鳥本 七郎

同 惠那郡笠置村

芳昌 齋

大野郡久々野村

竹細工副業組合

田村寅之助

田村寅之助

◎下駄表 年産額 五萬圓

從來養老郡多藝村大墳に於て、婦女子の手工的製作に係るが、近時稻葉郡黒野村に於ても相當之を生産するに至つた、販路は主として京都市である。

生産者 稻葉郡黒野村

北原 清八

◎製茶 年産額 五十九萬五千七十四圓

從來楫斐郡を中心に、不波、加茂、郡上、武儀、山縣、本巢、養老等の各郡を主とし、美濃國山間部で生産せられてゐる、近時品質急速に向上した、販路は長野縣、静岡縣、滋賀縣及北陸地方である。

生産者 楫斐郡楫斐町

長屋 和藏

加茂郡東白川村

五加製茶組合

◎蕨粉 年産額 三萬五千圓

古來益田郡朝日村、高根村及吉城郡阿曾布村で生産せられてゐる、近時獎勵の結果生産組織の改善共に同販賣を實行するに至つた、販路は富山、大阪、京都方面である。

生産者 益田郡朝日村

有限責任秋津神信用購買販賣組合

◎疊糸 年産額 二十萬圓

本巢郡合渡村曾我屋に於ては、寛政年間百十餘年前より副業的に之が製造を開始し、以來引續き製造をなし、現今では稻葉郡則武村地方にも製造が行はれるやうになつた。仕向地は主として京都市、名古屋である。

生産者 本巢郡彈正村

川瀬 金次郎

稻葉郡則武村

栗本新次郎

同

高橋茂市

同

高橋卯三郎

同

高橋順市

◎箴齒 年産額 二萬七千圓

本巢郡牛牧村では古來から之が製造行はれ、仕向地は主として京都市である。

生産者 本巢郡牛牧村

岐阜縣箴齒組合

◎織物 年産額 四百七十九萬九千九百七十七圓

羽嶋郡笠松町、柳津村、正木村、竹鼻町等では天明年間以來農家婦女が綿織物を製織し、之を名古屋城下に販賣してゐたが、爾後發展して他町村に及び、之が種類は綿織物、絹綿交織、絹織物等各種の製産を爲すやうになつた、仕向地は東京、大阪、京都、名古屋方面である。

生産者 羽嶋郡笠松町

有限責任販賣購買利用組合  
トモエ社

◎鮎粕漬 年産額 四萬圓

管内長良川、木曾川、楫斐川の三大川にて年々漁獲する鮎は多額に上り、殊に長良川の鮎は鶴飼と共に其名聲を博してゐる、鮎の肥大發育を遂げし九月以降では漁獲せし

ものを撰みて之を酒粕漬とする、從來之が加工は岐阜市にて行はれしも獎勵の結果、稲葉、郡上其他に普及するに至つた、販路は縣内にて土産品とし、一部は東京方面に搬出するのである。

生産者 稲葉郡長良村

安藤嘉七

郡上郡八幡町

伊藤保次郎

◎干柿 年産額 九萬三千三百五十八圓

干柿は古來品質優良なので全國に其名冠絶す、殊に加茂郡蜂屋村を中心に生産するものは最優秀にして維新前迄は換租の特典があつた、此他生産地は武儀、山縣、楫斐、不波、郡上の各郡にて年々之が改良を圖る爲産地に教師を派遣して指導せし結果、品質益々向上してゐる、仕向地は名古屋、東京方面である。

生産者 武儀郡南武藝村

加藤義一

◎鮎のうるか 年産額 一萬五千圓

粕漬加工の時期に之が製造を行ひ、其主産地は從來岐阜市を中心に獎勵の結果、稲葉郡、郡上郡にても生産するに至つた、販路は主として地方土産品として販賣するも、其一部を名古屋、東京方面に搬出するに至つた。

生産者 稲葉郡長良村

安藤嘉七

◎鵜の糍漬 年産額 二萬圓

安政年間惠那郡岩村町に於て鵜の捕獲を創始して以來、同郡内及可兒、土岐、加茂、武儀、郡上の各郡に及び之が加工を行ふに至つた、販路は名古屋、東京方面である。

生産者 惠那郡中津町

前田 常吉  
鈴木 省三

加茂郡八百津町

◎打刃物 年産額 六十八萬七千圓

六百餘年前より武儀郡關町を中心とし打刃物の製造せられ、爾來關鍛冶と稱し、技工優良を以て全國に其名を知らる、爾來近接地加茂郡田原村、加治田村に及すに至つた、維新後刀劍の外ナイフ、小刀、鋏、庖丁、剃刀、洋食器類の製造を増加し、仕向地は東京、大阪、神戸、京都、名古屋其他内地一般及朝鮮、印度及歐米に搬出する。

生産者 加茂郡田原村

有限責任追信用購買販賣利  
用組合  
舟 羽 兼 松

同 加治田村

◎棕梠繩 年産額 三萬八百十六圓

從來養老郡高田町に於て生産し、之が販路も管内及滋賀縣である。

生産者 養老郡高田町

小野 彌吉

◎棕梠帚 年産額 一萬六千圓

從來養老郡高田町に於て、生産して之が販路は縣内及名古屋市である。

生産者 養老郡高田町

小野 彌吉

◎竹 帚 年産額 一萬五千圓

從來揖斐郡本郷村に於て生産し、販路は菅田及名古屋市に搬出せられて居る。

生産者 揖斐郡本郷村

清水 惣市

◎實子帚 年産額 一萬九千五百八十九圓

從來揖斐郡小嶋村に於て製造してゐたが、獎勵の結果、同郡養基村、宮地村、本郷村地方に普及し、仕向地は管内及名古屋市である。

生産者 揖斐郡小嶋村

新宮 副業組合

◎香油 年産額 五千圓

大正六年頃より揖斐郡坂内村に於て黒もじ及こぶし香油を採取してゐる、仕向地は東京、大阪方面である。

生産者 揖斐郡坂内村

宮 町 隆 藏

◎眞 綿 年産額 二十九萬九千八百七十九圓

武儀郡下牧村、郡上郡八幡町、大野郡高山町では古來之が製造を爲してゐる、近時獎勵の結果、縣下全般に互つて其製造を行ふに至り、販路は主として大阪、京都、名古屋



屋方面である。

生産者 武儀郡下牧村  
郡上郡八幡町

古田 錠之助  
森本 爲吉

◎筵及吠 年産額 二十五萬三千四百八十六圓

山縣郡梅原村、富岡村、大幸村、櫻尾村、安八郡南平野村地方では從來之が製作を行ひしが、之が製造を奨励したる結果、養老郡、不破郡、安八郡、本巢郡、稻葉郡、加茂郡等に其製造を行ふもの急に増加を來してゐる、前記山縣郡富岡村にては之を吠に加工するものが多くなつた、販路は主として管内及愛知縣である。

生産者 山縣郡梅原村  
同 富岡村  
安八郡洲本村

矢崎 惣太郎  
鹿嶋 徳松  
杉野 庄八

◎繩 年産額 三十六萬五千三百六十四圓

從來繩は手紉であつた、大正七年以來機械製繩を奨励した結果、海津郡西江村、東江村、高須町、本巢郡眞桑村、惠那郡落合村其他地方に多數生産を爲すに至つた、仕向地は主として管内で三重縣、愛知縣にも搬出せられて居る。

生産者 海津郡西江村

水谷 はつこの

同

本巢郡眞桑村

水谷 喜十郎

且内 製繩組合

同

下眞桑製繩組合

◎蓑 年産額 二萬四千圓

蓑は縣内各地に生産してゐるが、販賣の目的で生産するのは安八郡淺草村、大野郡大八賀村の兩地で、從來之が製作販賣してゐる、仕向地は三重縣、愛知縣、長野縣、山梨縣方面である。

生産者 安八郡淺草村

横曾根 蓑共同組合

大野郡大八賀村

上江名子農事基礎団体

同

兀下 美代吉

◎杓子 年産額 千圓

益田郡朝日村及大野郡久々野村では奨励の結果、大正元年以來杓子を製作してゐる、仕向地は管内及滋賀縣、廣島縣に搬出せられて居る。

生産者 益田郡朝日村

長瀬 常之助

大野郡久々野村

橋本 永次郎

◎負籠 年産額 三千圓

大野郡、益田郡、吉城郡地方に於て、古來山地作業の用具入として、農家自ら櫻皮を以て風雅な負籠を製作し使用せしが、素朴な技功は風流家の愛好心を喚起し、購入希望者に對して製作販賣して居る、販路は管内である。

生産者 大野郡莊川村 松嶋 銀三

◎木彫 年産額 千圓

從來益田郡に於て農閑之が製作を行ふてゐる、販路は地方に過ぎない。

生産者 益田郡川西村 同 森田 倉之助  
青木 房次郎

◎葛粉 年産額 一萬五千圓

從來山縣郡北山村にては冬季葛根を採取し、葛粉を製造してゐる、販路は地方である。

生産者 山縣郡北山村 北山村農會

◎川苔 年産額 千圓

從來山縣郡北山村及本巢郡根尾村に於ては其村内河川に生ずる川苔を採取し、乾苔を製造してゐる、販路は地方である。

生産者 山縣郡北山村 北山村農會

◎木箸 年産額 四千三百五十八圓

大正五年以降武儀郡菅田町に於て之が製造を開始し、其後獎勵の結果、郡上、惠那、大野、益田郡地方に於ても之を製造するに至つた、販路は主として縣内である。

生産者 武儀郡菅田町 中嶋 松太郎

◎玉糸 年産額 四十二萬八圓

從來益田郡、惠那郡、郡上郡、武儀郡等に於て之が製造をしてゐる。仕向地は横濱、名古屋、群馬縣である。

生産者 益田郡竹原村 斐陽繭糸株式會社

◎莫蘆 年産額 二千四百七十八圓

從來山縣郡梅原村に於て製造してゐる、販路は主として管内である。

生産者 山縣郡富岡村 淺野 岩吉

◎疊表 年産額 二萬五千三十五圓

大正九年より楫斐郡川合村に於て之が製造をしてゐたが、獎勵の結果、安八郡神戸町に於て大正十三年來之が製造を行ふに至つた、販路は名古屋及地方である。

生産者 安八郡神戸町 福井農業基礎團體

◎蘭草 年産額 四千圓

從來山縣郡、養老郡の一部に於て栽培してゐたが、獎勵の結果安八郡神戸町で之が栽

培を開始し、品質亦佳良である、販路は主として管内である。

生産者 安八郡神戸町

福井農業基礎団体

◎富有柿 年産額 三十三萬九千八百五十五圓

甘柿界の優良種として、全国的に宣傳せられてゐる、富有柿は本巢郡川崎村の原産にして、食味の甘美なれば之が栽培は年々長足の増加を示し、同郡中は勿論、楫斐郡、武儀郡に最も多く栽培し、尙其他の郡でも相當多數に栽培せられてゐる、販路は名古屋、大阪、神戸、東京方面である。

生産者 本巢郡七郷村

安田 参二

同 彈正村

高木 徳次郎

同 藤田村

松尾 勝次郎

同 船木村

船木村農會

同 同

馬淵 庄之助

同 七郷村

高橋 鎌三郎

同 楫斐郡池田村

原 篤三

◎萃果 年産額 五萬圓

從來獎勵の結果吉城郡に於て栽培したるに、氣候土質の關係上食味頗る佳良であつた

が、其後虫害により殆ど枯損技株したが、獨り同郡上寶村に於ては病虫害の防除完全であつたから、殆ど其被害を見ないで順調に發展を遂げてゐる、販路は縣内及富山縣である。

生産者 吉城郡上寶村

上野 定一郎

◎柑 橘 年産額 三十萬九千九百八十二圓

從來海津郡城山村、石津村及羽島郡地方に於て之が栽培を行つてゐる、大正九年獎勵して害虫驅除上の設備を行はしめて、亦販路の統一を圖る爲め共同販賣を行はしむることとなつた、販路は名古屋、大阪、神戸方面である。

生産者 海津郡城山村

上野河戸柑橘業組合

同

徳 永 鍬次郎

同 石津村

石津村農會

同

後 藤 金 吾

◎山 葵 年産額 一萬五千七百四十九圓

從來獎勵を加へつゝある結果、郡上郡北濃村を始めとして、益田郡、大野郡、養老郡、惠那郡地方に之が栽培を増加するに至つた、販路は管内及神戸地方である。

生産者 益田郡高根村

荒谷 三左衛門

國產傘商

登錄商標



太田久吉

岐阜市外加納町廣江

電話一八四八番振替口座一〇四八番

御取引は!!

親切第一

薄利多賣

出荷敏速

製品特選

信用第一

貿易品日傘

國產雨傘問屋

上後藤銀行商店

岐阜縣加納町

取引銀行十六銀行本支店  
電略(カサギン)又ハ(コ)

御照會次第型録御送付可仕候

松井順四郎

郡上郡彌富村

◎刺繡 年産額 二萬五千圓

岐阜市、大垣市を中心として明治二十五年頃より之が製作を爲してゐる、作業は市街地婦女の副業として適當なので、從來之が製作を奨励の結果、従業者の數を増加し、次第に接續町村に向つて普及した、仕向地は京都市である。

生産者 大垣市

◎兔毛皮 年産額 三萬圓

養兔は從來加茂郡山之上村を中心とし、古井町、川邊町其他附近町村に飼養せられしが、奨励の結果同郡は勿論、惠那郡、武儀郡、山縣郡、稻葉郡、本巢郡、海津郡等に漸次飼養を見るに至つた、去る十三年武儀郡、山縣郡、稻葉郡を中心とし縣下を區域とする有限責任岐阜縣養兔信用購買販賣利用組合を組織し、生兔、兔肉、兔毛皮の販賣を行ふに至つた、販路は大阪、東京、横濱方面である。

生産者 岐阜市上太田町

森山喜久藏

御見込選<sup>キナ</sup>御仕入<sup>ハ</sup>

雪淡雨時雨梅雨春

産額日本一  
原料精選  
耐久無比  
價格低廉  
携帶手輕

合組用利賣販買購用信納加

町納加阜岐

番八二一話園電  
番三〇八九大阪大座口替振  
番三三〇三五屋古名(ン)電

御用意ノ雨傘ハ

好評噴々の  
國産品  
雨傘

眞の御取引は  
是非<sup>ハ</sup>

岐阜縣加納町本町通九丁目

店商安田多吉

電略〇タ又ハ「タ」

國産雨傘

(品選精良優)

製 標 商 特 價 販 賣  
品 豐 富

金

郎三金野淺

目丁七町納加縣阜岐  
(ア)ハ又(ンキサア)略電

製品種目

過燐酸肥料、完全肥料、  
 硫酸、硝酸、鹽酸、蠶種孵化用白鹽酸、  
 苛性曹達、晒粉、鹽化亞鉛、鹽化石炭、ハイド  
 ロサルファイト、芒硝、硫化曹達、次亞硫酸曹  
 達、鹽化滿俺、硫黃合劑、清澄劑、其他

東京市丸の内日本興業銀行内



大日本人造肥料株式會社

電話牛込  
 關國四五九二、關國六八八〇、關六〇一四、關六〇一五、  
 六八一三、六八一四、六八一五、六八一六、  
 六九一六、六九一七、六九一八、  
 七一一七、六八一七、六八一八、  
 三七一六

創立明治貳拾年  
 拂込資本金貳千貳百四拾萬圓

(説明書は御一報次第送呈す)

大阪支店  
 大阪市東區高麗橋三丁目三井ビルディング内

静岡県

◎石花菜 年産額 三十六萬貫 價額 九十萬圓  
 主産地は賀茂郡白濱村、稻取町とす。

生産者 賀茂郡白濱村

白濱村

◎真綿 年産額 五萬圓  
 主として市街地の副業として行はれしも、最近農村副業として行ふもの多し、主産地は  
 田方郡三島町、静岡市、濱松市である。

生産者 田方郡三島一七四四

加々見 鹿次郎

◎推茸 年産額 二十五萬貫 價額 六十餘萬圓  
 田方郡、安信郡、周智郡を主産地とし、販路は東西市場、支那方面である。  
 生産者 田方郡三島町 田方郡推茸同業組合

◎山葵 年産額 十萬貫 價額 四十萬圓  
 特殊の香味を有するを以て東京市場に於ける本場山葵の名あり、主として田方郡、安  
 倍郡、山内郡に産す。  
 生産者 田方郡上大見村 上大見山葵組合

◎菅 笠 年産額 十五萬個 價格 三萬圓

駿東郡大平村、静岡市、志太郡、濱名郡下に於ける農家副業として行はる。

生産者 駿東郡大平村 大平村農會

◎竹行李 年産額 十二萬組 價額四十萬圓

富士山麓の山村を主として駿東郡印野村、富士郡吉永村に産し、海外に輸出せらる。

生産者 駿東郡印野村 上松今朝雄

◎竹パイプ 年産額 四十萬圓

富士、箱根山に自生する竹材を應用し、製せらるゝものにして、専賣局煙草パイプとして取引せられ、海外にも輸出せらる。

生産者 駿東郡泉村 福島信太郎

◎蜂 蜜 年産額 五萬圓

本縣の如き蜜源植物多き土地にては農家の副業として各地に飼養せらるゝも、富士、箱根山に於て多い。

生産者 富士郡大宮町源道寺 清重太郎

◎溝 柿 年産額 十五萬貫 價額五萬餘圓

樽板柿として賞用せられ、富士郡、安信郡下に産せらる。

生産者 富士郡傳法村傳法 笠井與吉

◎密 柑 年産額 千八百萬貫

本縣柑橘は一部地方に於ては本業たるが如き感あるも、一般原始副業生産品として重要なものである。

生産者 庵原郡興津町 山梨梅吉

◎漁網繩 年産額 五十萬圓

縣下繩は農家副業として盛であつて、主産地は庵原郡西奈村、安倍郡有度村である、副業實行組合

◎畚 年産額 四萬圓 庵原郡西奈村瀬名川

藁工品中特殊なるものにして、農家婦女子及幼年の副業として行はれ、横濱地方に販路多し、主として安倍郡有度村、清水市、庵原郡飯田村に産す。

生産者 安倍郡有度村谷田 戸塚金作

◎甘藷切干 年産額 百萬圓

重要な農家の副業にして、榛原郡、磐田郡、駿東郡を主産地とし、各府縣道に販路が多い。

生産者 榛原郡地頭方村

榛原郡甘藷切干同業組合

◎葛布 年産額 十萬反 價額五十萬圓  
機織、原料採收は農家の副業として行はるゝも、最近朝鮮より原料を移入す、掛川町日坂町にて製せらる。

生産者 小笠郡掛川町 内田 米藏

◎呷 年産額 五十萬圓  
肥料用呷、米呷として販路多し、主として小笠原郡、磐田郡の一部榛原郡に産し、農家副業として盛んである。

生産者 小笠郡雨櫻村 近藤 松吉

◎櫻海老 年産額 千五百萬貫 價額四十萬圓  
縣下由比海岸地帯の特殊生産たり、庵原郡由比町、蒲原町を以て主産地とす。

生産者 庵原郡由比町北田 稻葉 鶴吉

◎次郎柿 年産額 五萬圓  
縣下甘柿中優良にして、森町を以て名産地とし、周智郡下、引佐郡下を主産地とす。

生産者 周智郡森町 森町 農會

◎裏蕈 年産額 一萬五千圓  
特殊蕈工品として販路多し、小笠郡、磐田郡に主として産せらる。

生産者 周智郡園田村圓田 鈴木 萬藏

◎干蕈 年産額 五十萬圓  
農家副業として主として磐田郡下に産せらる、乾燥用蕈として販路が多い。

生産者 磐田郡久努村 石川 新一郎

◎糸瓜 年産額 五萬餘圓  
海外に輸出せらるゝ重要な副業であつて、主として濱名郡下に産せらる。

◎落花生 年産額 六萬餘圓

原始的副業生産品として重要なものなり、天龍川沿岸に産するものは優良品とす。

◎乾薑 年産額 七萬餘圓

主として海外に輸出せらる、磐田郡、濱名郡下に主として産せらる。

糸瓜、乾薑、落花生、蕃椒  
四品同業組合

◎太蘭蕈 年産額 四十五萬圓

濱名郡白脇村、曳馬村、雄踏町を主産地とし、主として關西市場に販路が多い。

◎疊表 年産額 二百餘萬圓

重要な副業にして、遠州青蕈表として名高し、東京市場に於て名聲を博す、引佐郡下を主産地とし、濱名郡にも産せらる。



遠江疊表同業組合

生産者 引佐郡氣賀町

◎蠶 年産額 五萬圓

農家の副業として盛んである。特に都田菴として販路が多い。

生産者 引佐郡都田村

産業組合

◎蠶 網 年産額 二萬圓

養蠶地方に販路多く、遠州網として名高し。

生産者 引佐郡氣賀町

磯部隆吉

◎山葵漬 年産額 六十萬圓

静岡山葵漬として名高し。

生産者 静岡市呉服町 (田丸屋)

望月大太郎

◎山葵の素 年産額 五萬餘圓

特殊加工品にして販路が多い。

生産者 静岡市呉服町

望月大太郎

◎竹細工 年産額 三十萬圓

竹製品は其種類多しと雖も、静岡市に於る竹製品は徳川時代からの名産である。

生産者 静岡市驛南

大畑常吉

◎鯉の素

鯉節製造の際に於て生ずる煮汁にして、鯉節製造業者の副業たり、其他鯖、鰯等よりも製造され、調味料として佳良である。

生産者 志太郡焼津町城之腰

村松善八

◎塩 辛

主として鯉を原料とせられ、漁業者の副業として名産である。

生産者 志太郡焼津町城之腰

齋藤幸太郎

◎鯉 節 年産額 二百萬圓

縣下の名産にして製造盛にして、近年其聲價東西に擧り稍々專業たるの感がある。

生産者 志太郡焼津町城之腰

村松善八

◎蠶 簇 年産額 一萬圓

製造は主として、養蠶業者の自家用なりしも、亦農家の副業として販賣せらる。

生産者 志太郡青島町

日本蠶業株式會社

◎草履表 年産額 三十五萬圓

濱松市、福地、志太郡、小笠郡より生産せらる。

生産者 濱松市福地

福地産業組合

# ダイヤモンド 物及イナビサ

いつ使つても氣持好く

徳用で便利な保證付の品は

ダイヤモンド印及物です



發賣品  
一、臺所用庖丁  
食卓ナイフ  
果物ナイフ

果物ナイフ  
懷中ナイフ  
握鉄洋鉄  
其他各種

東京市麹町區内幸町一ノ四

東京特殊鋼器製作所

電話銀座一〇三〇九番  
二四一六番

振替口座東京五八七〇六番

## 愛知縣

◎守口大根味淋漬 年産額 五萬圓

産地は西春日井郡西枇杷島町に産し、販路は内地一圓滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡枇杷島町 中村鎌吉商店

◎青爪味淋漬 年産額 六萬圓

産地は西春日井郡西枇杷島町に産し、販路は内地、滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町 中村鎌吉商店

◎大根味淋漬 年産額 六萬圓

産地は尾張國一圓に産出し、販路は内地一圓滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町 中村鎌吉商店

◎朝日漬 年産額 三萬圓

産地は西春日井郡西枇杷島町にて産出し、販路は内地一圓滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町 中村鎌吉商店

◎茄子からし漬 年産額 二萬圓

産地は西春日井郡西枇杷島町にて加工製造し、販路は内地及滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町

中村鎌吉商店

◎味神花蘇薹燻詰 年産額 二萬圓

産地は西春日井郡西枇杷島町に産出し、販路は内地及滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町

中村鎌吉商店

◎大蘇薹燻詰 年産額 四萬五千圓

産地は西春日井郡西枇杷島町に産し、販路は内地一圓を初め滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町

中村鎌吉商店

◎金城漬罐詰 年産額 四萬五千圓

産地は西春日井郡西枇杷島町に産し、販路は内地及滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町

中村鎌吉商店

◎福神漬罐詰 年産額 七萬圓

産地は西春日井郡西枇杷島町に産出し、販路は内地及滿鮮地方である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町

中村鎌吉商店

◎漬物

主産地は名古屋市中區御器所町

名古屋同業組合

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

猪子官三郎  
名古屋漬物株式會社  
米倉友次郎  
安藤與吉  
加藤鐵次郎  
鬼頭銀次郎  
柴田初右衛門  
川崎久一  
鈴木菊太郎  
永田淺藏

◎ひじき 年産額 壹千圓

知多郡篠島に産出し、販路は名古屋、伊勢各地關東地方である。

生産者 知多郡篠島村

小久保文彌

◎ふのり 年産額 八千圓

産地は知多郡篠島村で、販路は名古屋、西三河其他各地である。

生産者 知多郡篠島村

小久保文彌

◎櫛皮 年産額 五千圓

東加茂郡旭村金平に産し、販路は大阪、岡山、静岡方面である。

生産者 東加茂郡旭村

旭特産販賣組合

◎木炭 年産額 七十五萬圓

東加茂郡一體に生産するもので、三河、尾張等主として縣内の消費に充てられて居る。

生産者 東加茂郡

東加茂郡木炭同業組合

◎三河森下紙 年産額 壹萬五千圓

東加茂郡旭村に産出するもので、販路は東濃、尾張三河方面である。

生産者 東加茂郡旭村

東萩平製紙組合

◎串刺 年産額 一萬二千圓

寶飯郡鹽津村及形原町で生産されたのが極く最近のことに屬し、大正十一年より創めたのである、販路は東京、横濱、京都、大阪、名古屋、神戸地方である。

生産者 寶飯郡形原町

牧原猪吉

同 鹽津村

石川關太郎

◎乾海苔 年産額 三十萬圓

寶飯郡前芝村に生産され、古く文化年間に創まつたものである、販路は主として大阪、

東京、京都、神戸地方である。

生産者 寶飯郡前芝村

三河乾海苔同業組合

◎木箸 年産額 二萬三千圓

南設樂郡新城町に産出されるが、販路は静岡、愛知地方である。

生産者 南設樂郡新城町

新城木箸同業組合

◎竹製品 年産額 十萬圓

主産地は丹羽郡古知野町で、古く足利時代に創まりしもので、販路は名古屋、岐阜縣、長野縣、三重縣、静岡縣である。

生産者 丹羽郡古知野町

東野生産組合

同

長谷川辰次郎

同

長谷川彦三郎

同

長谷川富三郎

同

長谷川守

同

尾岡新一郎

同

武馬庄太郎

同

堀田松次郎

丹羽郡古知野町

武馬銀一

同

尾關爲三郎

同

尾關石松

同

森田駒次郎

◎七打真田原料糸及撚七打用原料 年産額 五萬圓

産地は岡崎市で、明治四十五年に創めたもので、販路は内地各地に有して居る。

生産者 岡崎市門前町

志貴 仲人

◎五色玩具線香煙火 年産額 一萬圓

七十年前に岡崎市に於て小兒の玩具用として盛んに製造され、販路は愛知縣、關東方面に販路を有して居る。

生産者 岡崎市

近藤 藤四郎

◎絞 年産額 二百萬圓

産地は主として名古屋市内にて製造されるもので、天智天皇の御代に創まつたもので、販路は全國は勿論、廣く滿鮮、臺灣、樺太にも販出して居る。

生産者 名古屋市西區本重町

愛知縣絞同業組合聯合會

◎絹 綿 年産額 貳拾五萬圓

本縣の絹綿は主として西加茂郡舉母町にて生産し、相當手廣く、内地は勿論朝鮮、臺灣、樺太、滿洲、支那にも販路を有して居る。

生産者 西加茂郡舉母町

東海絹綿株式會社

◎改良木箸 年産額 一萬圓

産地は葉栗郡草井村で、明治の初年に創製したもので、縣内で消費せしもの、外は三重、岐阜、長野等に販路を有して居る。

生産者 葉栗郡草井村

馬場 五平治

◎焼 鮎 年産額 一萬二千圓

豊川流域で漁る鮎を明治十七年頃に初めて焼きて焼鮎となし、販路は縣下東部、三河地方の消費に充てられて居る。

生産者 南設樂郡新城町

鮎加工組合

同 長篠村

鮎加工組合

◎白菜種子 年産額 一萬圓

産地は知多郡上野村で、大正元年創めて採收を試み良好なる成績を得、今や販路は内地一般に涉つて居る。

生産者 知多郡上野村

名和前採種組合

◎疊床 年産額 一萬二千圓

東西春日井郡地方一般に産出され、東京、名古屋、横濱に販路を有して居る。

生産者 東春日井郡守山町

東西春日井薬製品同業組合

◎厚蕙 年産額 二萬圓

産地は東西春日井郡で、販路は岐阜縣、愛知縣である。

生産者 東春日井郡守山町

東西春日井薬製品同業組合

◎細繩 年産額 十五六萬圓

産地は東西春日井郡に農家の副業として盛んに製造せられ、販路は岐阜縣、愛知縣に仕向けて居る。

生産者 東春日井郡守山町

東西春日井薬製品同業組合

◎小鳥籠 年産額 三萬圓

名古屋市にて製造され、全国的に販賣されて居る。

生産者 名古屋市東區七間町四丁目八

柴田 初太郎

◎薑砂糖漬 年産額 五萬圓

海部郡立田村に於て大正十年頃から創めしものなれど、内地各地及米國にまで販路を有するに至つた。

生産者 海部郡立田村

濱田 米治郎

◎蓮根砂糖漬 年産額 五萬圓

産地は海部郡立田村で、大正十年頃より薑砂糖漬の創製と同時に創めしもので、内地各地及米國に販路を有して居る。

生産者 海部郡立田村

濱田 米治郎

◎福神漬 年産額 十四萬圓

産地は知多郡上野村で明治三十六年に創業したもので、販路は名古屋市を中心とし大都會各地方に仕向けられて居る。

生産者 知多郡上野村

愛知トマト製造株式會社

◎カゴメ印ソース 年産額 十四萬圓

産地は知多郡上野村で、明治三十六年創業したもので、販路は名古屋市を中心とし大都會全部である。

生産者 知多郡上野村

愛知トマト製造株式會社

◎トマト、ソース 年産額 九萬五千圓

明治三十六年知多郡上野村にて初めて創製したるもので、東京、横濱、大阪、神戸、京都其他全國各地に販路を有して居る。

愛知トマト製造株式会社

生産者 知多郡上野村

◎トマト、ケチャップ 年産額 二十萬圓

明治三十六年知多郡上野村にて初めて創製したるもので、現今は東京、大阪、京都、神戸、名古屋、横濱其他各地に販路を有して居る。

生産者 知多郡上野村

愛知トマト製造株式会社

◎茶 (玉露、煎茶、薄茶、磚茶) 年産額 二百萬圓

産地は幡豆郡西尾町で、明治四年頃創業したるに初まり、その販路は内地一圓は勿論滿鮮、臺灣にまで及んで居る。

生産者 幡豆郡西尾町

幡豆郡茶業組合

- 同 稲垣 一 郎
- 同 高須 松 太郎
- 同 小久口 福 松
- 同 小林 安 太郎
- 同 近藤 仁 太郎
- 同 杉田 益 太郎
- 同 大高 政 吉

稲垣 政 利

坂部 仁 三 郎

杉崎 音 次 郎

近藤 吉 五 郎

杉田 愛 次 郎

近藤 鈺 平

山 川 榮 馬

近藤 半 太 郎

◎このわた、うに、鯛力煮

知多郡師崎町に産し、内地一圓に販路を有してゐる。

生産者 知多郡師崎町

師崎漁業組合

山本 嘉 一

神谷 富 次 郎

中 村 松 吉

◎渥美早生豌豆 年産額 二十萬圓

産地は渥美郡伊良湖岬村、赤羽根村、福江町、泉村、神戸村、野田村に産出するもの

で、明治四十四年頃より創めたものである、販路は主として名古屋、大阪、東京、神戸、京都の各都市である。

生産者 渥美郡役所内

渥美豌豆聯合出荷組合

同

私地 出荷組合

同

土田 出荷組合

◎別珍表、新天ビロード表草履 年産額 五萬圓

産地は海部郡甚目寺村で、明治四十年頃創業したるもので、販路は内地一圓、朝鮮、臺灣、滿鮮である。

生産者 海部郡甚目寺村

合資會社加藤吉商店

◎淺草海苔 年産額 二千圓

産地は愛知郡下ノ一色町に於て、明治四十三年創業したもので、其の販路は主として名古屋市、關西方面である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色辦業組合

◎雜貝粉 年産額 三千五百圓

大正十二年八月愛知郡下の一色町に初めて創製したもので、販路は全国各地に亘つて居る。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎蛤エキス 年産額 八千圓

産地は愛知郡下の一色町にて、大正八年創業したもので、其販路は内國各地は勿論廣く臺灣、朝鮮、滿鮮に及んで居る。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎めざまし貝 年産額 一萬圓

産地は愛知郡下の一色町で、大正九年に開始せし極く最近のものであるが、内國各地に販路を有するに至つた。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎トマト、ケチャップ 年産額 八千圓

産地は愛知郡下の一色町で大正十三年の創業、販路は名古屋、大阪、神戸方面である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎トマト、ソース 年産額 七千五百圓

産地は愛知郡下の一色町で、明治三十六年頃の創業であつて、販路は名古屋、大阪、神戸方面である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合



◎晒貝 年産額 六萬六千圓  
古く二百年前愛知郡下の一色町に於て創製せしもので、販路は大阪、滋賀、富山、京都方面である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎蛤罐詰 年産額 五萬二千圓

明治二十五年愛知郡下の一色町に於て創製したもので、販路は京阪、神戸方面である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎グリーンピース 年産額 一千圓

産地は愛知郡下の一色町で、大正十一年の創業で、販路は主に名古屋市である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎蘭みす 年産額 三千圓

産地は愛知郡下の一色町で、大正十三年の創業で、日尙淺きも名古屋、東京、大阪に販路を有するに至つた。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎パイダラ 年産額 六萬九千圓

産地は愛知郡下の一色町で、大正元年の創業であつた、販路は名古屋、大阪、東京方面である。

面である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎田作 年産額 一千圓

産地は愛知郡下の一色町で、明治二十二年の創業にして、販路は名古屋、岐阜、長野方面である。

生産者 愛知郡下の一色町

下の一色漁業組合

◎大根切干 (千切干、花丸、角切) 年産額 九十萬圓

産地は尾張國一圓であつて、販路は内地、朝鮮、滿鮮、臺灣、南洋方面に及んで居る。

生産者 一宮市

尾張大根切干同業組合

◎棕梠箒 年産額 四千圓

葉栗郡宮田町であつて、明治三十四年の創業で、販路は愛知、三重、岐阜、静岡地方である。

生産者 葉栗郡宮田町松竹

堀場 平右衛門

◎消毒箸 年産額 五萬圓

産地は名古屋市にして、明治四十年頃の創業であつて、販路は全国各地に及んで居る。

生産者 名古屋市東區吳服町三六

水野 英之助

◎原式製繩機 年産額 三十五萬圓  
産地は名古屋市中、販路は内地各地に涉つて居る。

生産者 名古屋市西區笹島町

物産共同合資會社

◎蘭蠶網 年産額 三十萬圓  
産地は西春日井郡、中島郡、丹羽郡一圓であつて、販路は内地各地である。

生産者 西春日井郡西枇杷島町

尾張蠶網同業組合

◎推 茸 年産額 一萬圓  
産地は三河國鳳來寺村で、販路は名古屋、大阪、京都、東京方面である。

生産者 南設樂郡鳳來寺村愛郷字日向 山川貞治郎

◎壘苞座編機  
産地は名古屋市中、大正十三年よりの創業であつて、關西方面に販路を有して居る。

生産者 名古屋市千早町三ノ二六 朝日商會 井阪五一

◎鼻 緒  
産地は名古屋市中、販路は全國的である。

生産者 名古屋市西區下園町

高木合名會社

◎蒲 鉾

産地は名古屋で、販路は全國一圓である。

生産者 名古屋市熱田大瀬子町

成田松左衛門

◎眞 田 (麥 稈)

産地は名古屋市中、販路は全國的である。

生産者 名古屋市

愛知縣眞田同業組合

◎京人形

産地は名古屋市中、販路は全國一圓に及んで居る。

生産者 名古屋東區石神堂町六七

酒井常一

◎松原式製繩機

産地は東春日井郡勝川町で、販路は北陸、關西、九州方面である。

生産者 東春日井郡勝川町

松原甚市

◎犬山燒 年産額 二十萬圓

産地は尾張國犬山町で、元祿年間に創めしもので、全國各地に販路を有して居る。

生産者 丹羽郡犬山町

陶器組合

同

尾關作十郎

同

林 善兵衛  
平野 重助

◎桑、柑橘、柿苗木類  
産地は中島郡明治村、千代田村で、販路は關西方面である。

同 中島郡

中島郡桑苗木業組合

中島郡果樹苗木業組合

下郷農事改良實行組合

矢合植物生産組合

◎大根種子

産地は中島郡で、販路は全國的である。

生産者 中島郡

中島郡宮重大根採種組合聯合會

◎大根長割干、割干、千切干  
産地は中島郡明治村で、販路は東京、大阪方面である。

生産者 中島郡明治村

瀧 森 一

加藤 勲 正

瀧 萬次郎

中島郡明治村

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

◎トマト、ソース

柿田 芳盛

箕浦 春太郎

瀧 彌十郎

瀧 常十郎

柿田 由松

瀧 初太郎

瀧 光雄

平松 辰治郎

祖父 江藤 一

三輪 安五郎

長崎 政治郎

倉見 代治郎

倉見 喜十郎

家田 禮太郎

家田 太郎

家田 稔

産地は知多郡上野村で、販路は全国に及んで居る。

生産者 知多郡上野村

中央食品株式会社

◎トマト、ケチャップ

産地は知多郡上野村で、販路は全国大都市に及んで居る。

生産者 知多郡上野村

中央食品株式会社

◎桃太郎印ソース、海軍印ソース

産地は知多郡上野村で、販路は全国に及んで居る。

生産者 知多郡上野村

中央食品株式会社

◎グリーンピース

産地は知多郡上野村で、販路は全国大都市である。

生産者 知多郡上野村

中央食品株式会社

◎梨、晩三吉、逢來種

産地は碧海郡安城町で、關東、關西方面に販路を有して居る。

生産者 碧海郡安城町

安城梨業組合

同

時田榮吉

同

吉澤正一

三重 縣

◎柑 橘 年産額 五十二萬三千二百五十二圓

多氣郡は百數十年の昔から佐奈村を中心として栽培に係り、近年其の栽培反別増加と共に、品種も紀州密柑より温州密柑に變化し、其品質も大に改善せらる、從來主として縣内宇治山田市及津市、松阪町等の市場に取引せらる。南牟婁郡は古くから神志山を中心し、附近一帯に柑橘の栽培盛にして、明治三十年頃から夏橙、温州及ネーブル等の栽培者年々多きを加ふ、又本郡農會でも神志山村に柑橘苗圃を設け、樹苗を養成して之を當業者に供給する等極力獎勵の結果、目下東京、大阪、名古屋方面の市場にも販路を有するに至つた。北牟婁郡は數百年前から九鬼村、三野瀬村を中心とし、植栽の濫觴は寛政年間九鬼右膳、棟隆村内字御堂の上に一町歩許りの園を開き、紀州密柑を主として九年母、薄皮、密柑等を植栽し、爾來數十年に亘つて豊收を續けしも、中途一時荒廢に歸せしが、明治八、九年の頃二、三の篤志家出で温州密柑、紀州密柑等を植栽し、明治二十年頃始めて夏橙を植栽し、明治三十四、五年にはネーブルを試植し、之れより年を逐ふて植栽者漸次増加し大正十三年に至つた。爾後數年間北牟婁郡農會に於て和歌山縣有田郡から柑橘指導教師を招聘し大いに改善に努めし結果、其成

續大いに良好にして、其産額益々増加しつゝあり、大阪、名古屋を初め各地方に販路を有するに至つた。桑名郡は凡そ五十年前以前多度村に於て、岐阜縣から苗木數本を移植して栽培せしに創り、漸次栽植を爲し、近村古濱村、深谷村に及ぼし、品質の向上を圖りし結果、其の聲價を博し美濃名古屋方面に販路を擴張するに至つた。度會郡の五ヶ所灣内は主なる生産地で、數年以前縣の奨勵金を受け、販賣及び栽培に努力せし結果、現在に於ては年四萬九千八百三十五圓の製産を得るに至つた。販路は名古屋其他三州方面に移出して居る。

- 生 産 者 桑名郡深谷村 水谷 甚 松
- 同 同 深谷村農會 筒井 仁三 郎
- 同 同 古濱村 野 呂 嘉 六
- 同 同 多度村 平野 興善 右衛門
- 同 同 五幣 庄 太 郎
- 同 同 近藤 清 次 郎
- 同 同 石川 恒 三
- 同 同 石川 準 次 郎

多氣郡佐奈村

- 同 同 南牟婁郡阿田和村 花 谷 松 藏
  - 同 同 同 浦田 小右衛門
  - 同 同 同 鈴木 正 太 郎
  - 同 同 同 奥 地 太 寅 吉
  - 同 同 同 加 田 利 八
  - 同 同 同 大橋 訥 次 郎
  - 同 同 同 仲 常 松
  - 同 同 同 山 幸 之 助
  - 同 同 同 山 崎 嘉 助
  - 同 同 同 垣 内 千 賀 三
  - 同 同 同 中 西 嘉 三 市
  - 同 同 同 山 本 藤 七 郎
- ◎百合根 年産額 二萬七千八百二十九圓  
主に阿山郡玉瀧村、鞆田村、東柘植村等に往昔から栽培されしが、土壤がよく百合根に適合せるため生産額も七千五百貫位である。京阪地方に移出して居る。

生 産 者 阿山郡玉瀧村

服 部 泰 藏

阿山郡玉瀧村 森井 要吉  
同 内保源 三郎

◎伊勢薯 年産額 十八萬九千五百六十圓  
飯南郡は明治の中葉から末期に相當盛に栽培せられ、松坂市場を経て宇治山田市、大阪方面に搬出せられしも、近年之れが栽培の相當有利なるを認められ、漸次増加の傾向あるに至つた。多氣郡は古く享保年間から明治大正に至つて、其栽培益々盛となり近時輸出禁止と共に其の産額を減せしも、年額三萬圓を下らず、主として本郡津田村相可町、佐奈村に栽培せられ、販路は地方及名古屋方面である。名賀郡は伊勢薯は明治維新以前から、美濃波多村を中心に盛に栽培したもので、爾來之が栽培を行ひつゝあり、販路は主として奈良、京都、大阪地方である。

生産者 飯南郡射和村 浦城 與平  
同 飯南郡佐奈村 奥野 武三  
同 津田村 西谷 太郎吉  
同 津田村 綾野 惣助  
同 津田村 川村 喜三郎  
同 津田村 太田 仁右衛門

多氣郡津田村 津田村 農會  
同 長谷川 米吉  
同 森田 松太郎  
同 三谷 善助  
同 佐野 佐吉  
同 村林 庄太郎  
同 北林 長五郎  
同 小野 嘉平太  
多賀郡名張町 大屋戸 蔬菜組合  
同 藏持村 濱地 市太郎  
同 北自岐村 前川 鉄次郎  
同 美濃波多村 龜澤 増藏  
同 松本 丑松  
同 福永 元夫

◎甘藷切干 年産額 二萬一千六百二十九圓  
志摩郡は半島國である爲め往々食糧不足を見るため、往昔から甘藷を常食間食用とし

て栽培せしが、其技術の進歩と共に、食用を充たし餘分を販賣し來りしが、生甘藷は腐敗の恐れあるを以て、堀採當時に白切干となし、加工品として大阪、京都、神戸地方に販賣せらるゝに至り、波切、船越、片田、布施田、和具、越賀等の各村で最も盛に製造し、明治三十年頃からは益々盛となり、爾來年産額五萬貫以上に達し甚だ有望なものとなつた。

生産者 志摩郡片田村

同

奥野大藏  
竹内利三郎

◎大根切干 年産額 三萬三百六十圓

鈴鹿郡は大根切干の産地である、澤庵は形状品質の優良のものゝみを選択するものなれば、澤庵に適せぬものは生大根として販賣す、切干に製するには其形状の如何を問はず、澤庵に不適當なるものを利用するから、自然兩立の姿となり、大正六七年頃からは急速度を以て發達し、京都、大阪、神戸並に京都府下新舞鶴等に販賣さるゝに至つた。

生産者 鈴鹿郡國府村

同 石薬師村

奥捨一田  
熊澤宇三郎

◎澤庵漬 年産額 七十一萬四千七百九十四圓

三重郡は古來から大根の生産地で、最近迄農家は生大根の儘商人に賣却せしも、郡當

局の獎勵により、大正十二年農家の共同で五百樽を漬込み、岐阜地方に販賣せしに忽ち好評を博せしに鑑み、大正十三年は千五百樽を漬込み、農家組合の手により岐阜、名古屋、京阪地方に仕向けた、十四年は一躍五千樽を漬込むの盛況である。鈴鹿郡に於ける一部農村は比較的田地少なく爲に、山林原野を開墾して畑地とし、之が利用方法を研究の結果、其栽培面積増加し、一農家にして一町五反餘歩の栽培者を見るに至つた、是等は皆生大根として販賣せしを以て、之に加工の方法を指導したる結果、大正三年からは石薬師村一、二商人の手により澤庵として販賣されしが、近來農家の副業として自家生産の大根を以て澤庵漬となし、大阪、京都、神戸、横濱等に販路を拓くに至つた。

生産者 三重郡四郷村

鈴鹿郡石薬師村

八王子農家組合  
加藤憲一

◎漬物類 年産額 十八萬五千八百三十六圓

阿山郡の養肝漬は近時の發賣であるが、由來伊賀國の農家が自家で産する紫蘇、大根茄子等を加工して、之を白瓜の中に詰め込み味噌漬となし、香の物として嗜好したもので、未だ一般には知られざりしを當町の宮崎千太郎、本城正利の兩氏が生産販賣を開始するに及んで、原料の吟味製造の研究を積み、調味に一段の改良を加へ之が普及

を圖り、漸次世人に知らるゝに至つたものである、之を食膳に供すれば一種の香味亦賞すべく、而も四季に變味せざるは本品の特長とする所で、最も土産物等に適し近時各地の需要は甚だ多いが、生産は少ないので仕向地としては少量宛全國的に販賣して居る。

生産者 阿山郡上野町 木城 政利 宮崎 慶吉

◎真綿 年産額 壹萬一千四百七十六圓

三重郡の真綿は明治三十八九年頃副業として創始以來、四日市市、神戸町方面へ販賣し、大正初年頃から縣下一圓、愛知縣等へ出向け、最近に至り東京、京阪地方、北海道、朝鮮の各地にも販路を有するに至つた。名賀郡に於て明治四十二、三年頃屑繭整理講習會を始めて開始し、自家用真綿の製作を奨勵し、近時其の有利なるを認め、錦生村を中心に製作するに至つた、又真綿加工品として、防寒用胴着、足袋等をも製作して居る。販路は東京、奈良縣内一圓である。員辨郡は從來真綿は養蠶の副産物とし養蠶家各自屑繭を以て製造し需用を充せしが、明治四十年以降數回に亘つて屑繭整理の講習を行ひ、殊に真綿製造に熟練せる教師を招聘し、其製法を奨勵し、改善に努めし結果、優良なるものを郡内各地共に産出するに至つた、販路は名古屋地方が最も

多くなつた。

生産者 三重郡内部村 藤田 清藏 名賀郡錦生村 竹田 淺次郎 員辨郡十社村 林 秀一

◎繭 年産額 二千三百十五萬三千三百八十二圓

縣下の養蠶業の起源は、藩制時代にあるも隆盛を見ずして久しく歲月を経過した、由來縣下は天與の養蠶地なるを以て、維新前後廢藩置縣の當時、既に之を藩士授産事業とし、又一般農家の副業として奨勵を加へられ、爾來種々の計畫を樹て普及發達を企圖せられて、明治十八年初めて教師を招聘し傳習所及勸農場を設け、子弟を教養せしむも依然向上發達の機運に向はず、一面蠶病消毒の普及を圖ると共に、稚蠶共同飼育、桑樹病虫害の驅除豫防等督勵大に努めしと共に、農事講習所を設けて農家子弟に斯業の學術を習得せしめ、原蠶種製造所を設け蠶品種の改善向上を圖り、或は養蠶組合の設立を勸奨して地方的蠶繭の統一、桑園の改良整理を行はしめ、或は蠶種冷蔵事業を助成して夏秋蠶種製造の發達に資する等、何れも確實なる基礎の下に斯業の開發に力を注ぎし結果、本邦生絲貿易の進展と相俟て、其の發達の状著しくなつた。

生産者 員辨郡三里村 出口 重五郎



三重郡小山田村

養蠶組合

河藝郡

河藝郡養蠶組合聯合會

一志郡大井村

井關養蠶組合

飯南郡港村

鹽口延藏

度會郡瀧原村

神田喜右衛門

阿山郡小田村

小田村養蠶組合

名賀郡古山村

小山由松

◎素麵 年産額 七十一萬八千三百九十二圓

三重郡の素麵は明治初年頃二三の者が素麵の製造に従事せしも、本業は農家の副業に適切、且つ有利なるを悟り漸次普及した、明治四十三年十二月産業組合を設立し、漸次製造に改善を加へ、一面販路の擴張を圖り、遂に今日の發達を見るに至つた、當初販路は縣下の南勢及滋賀縣の一部でありしが、逐年販路を擴張し、愛知縣、岐阜縣、北陸地方、京阪地方、東京市等へも仕向け、最近に至り九州地方並北海道にも販路を有するに至つた。員辨郡は從來久米村を中心に製造せしが、獎勵の結果七和村、神田村地方に及び、殊に近年機械を使用して製麵し、年々生産力を増大し、近時は名古屋、東京、青森縣、北海道、奈良縣、富山縣、四國方面にも販路を有するに至つた。桑名

郡の主要物産の一で、遠く二百五十年の昔から今日に至り、其製法も漸次改善せられ、近時北勢素麵同業組合を組織し、桑名郡、員辨郡を區域とし(主要地在良村)原料の選擇に注意し製品を吟味して濫造の弊を防ぎ、専ら製品検査に意を用ひし結果、聲價大ひに揚り販路は岐阜縣、愛知縣を主として各地に擴張せらるゝに至つた。

生産者 三重郡大矢知村

大矢知信用購買販賣組合

員辨郡大長村

中川孝治郎

桑名郡桑名町

北勢素麵同業組合

◎干饅飩 年産額 二十七萬七千六百六十五圓

三重郡は明治晩年に創始せられ、爾來同業者の數も増し今日の隆盛を見るに至つた。而して共同機關に依るを一層有利となし、産業組合に於て原料の購入製品の販賣等を行つてゐる。現今では縣下、愛知縣、滋賀縣、京阪地方、北陸地方、東京市、九州地方及北海道等に販路を有するに至つた。安濃郡は明治三十年の冬副業として素麵製造を創始し、明治四十年製麵機を据付け乾饅飩を併業することとなつた、當初は俗に賃切と稱して原料たる小麥を提供せしめて真工料を徴するの目的であつたが、機械の使用に慣るゝに従ひ能率増大して製産に剩餘を生じ、自然地方商人と取引を爲すに至つたのである。現在は縣下は勿論近畿及名古屋地方にも販路を有するに至つた。阿山郡

の乾餾餛は大正十年伊賀製麵株式會社創立に始まり「玉餾餛」製造を目的として居る「乾餾餛」は副業的生産なるも、品質優良なるを以て賞美され、進物用箱入のもの漸次多く歓迎せらるゝに至つた、仕向地は京阪地方である。

生産者 三重郡大矢知村

大矢知信用購買販賣組合

安濃郡神戸村

池村富三郎

阿山郡上野町

伊賀製麵株式會社

◎麥 芽 年産額 十萬五千五百圓

明治三十年頃三重郡の二三のもの農業の傍ら製造に従事せしが、以來農家の副業として漸次普及した、當初の販路は附近地方及名古屋市等なりしが、大正七、八年には岐阜縣、愛知縣、京都府、北海道の各地へも仕向けらるゝに至つた。

生産者 三重郡川越村

水谷源太郎

同

河本治祐

◎綠 茶 年産額 百六十八萬七千四百四十圓

縣下の栽茶は古くから栽培せられ、當初は皆無剪技園のみであつたが、栽培法と品質の改良と共に増收を計りし結果頗る良好となつた、明治初年頃より長足の進歩發達を來し、縣内重要な物産の地位を占しも、世界戦亂の餘波は勞銀の昂騰、生産費の膨

脹を來し、爲めに一大脅威を受けしも、機械力を應用し共同經營の普及を見るに至つて之の危機を脱し、現在は栽培に機械力を應用し、最も有利に展開せしと品質の優良なるに聲價を博した、仕向地は京都、静岡、東京、神奈川、滋賀、長野の各府縣と朝鮮、臺灣、亞米利加等にも輸出せられて居る。

生産者 員辨郡神田村

水谷善太郎

同 石榑村

島田薫

三重郡小山田村

西山改良製茶組合

同 菰野村

片倉共同製茶組合

同 水澤村

四ッ谷信用購買販賣組合

鈴鹿郡石薬師村

加藤傳十郎

同 高津瀬村

鈴鹿製茶市場

一志郡多氣村

小林貞次郎

同

小林金之助

飯南郡柿野町

石丸長左衛門

同 瀬見村

浦辻嘉藏

多氣郡五ヶ谷村

野呂齋太郎

多氣郡五ヶ谷村  
度會郡内城田村  
同 外城田村

瀧向製茶組合  
鳥羽才五郎  
森本七兵衛

◎紅茶 年産額 壹萬二百圓

縣下の紅茶は明治十三年頃菰野製茶研究所で、支那式製法により製造して初めて横濱に試賣せしも、品質は印度のものには及ばず、併し尙少量づゝは菰野紅茶として製造せしが、到底輸出するに足らず、其後大正二三年にも伊達式により幾分改良は加へしもそれも完全ならざれば、三重郡茶業組合は郡技手中桐米三郎氏を大正六年印度に派遣し、印度及錫蘭地方の製法及乾燥法の研究を爲さしめ始めて從來の醱酵方法を改めて中桐式乾燥器を造るに至つた。其結果縣下の紅茶は其面目を一新せしも、尙改良の餘地あるを認めし折柄大正九年七月、中桐氏は縣聯合會議所及中央會議所の囑託を受け再度の渡印をなし、爪哇方面を視察して歸朝し、益々改善を加へしを以て、今や全國中紅茶産地として本縣に比肩するものなきに至つた。

生産者 志摩郡鶴方村

津市

鶴方共同製茶組合  
三重縣茶業聯合會議所

◎疊表 年産額 一千六百八十圓

從來鈴鹿郡には疊表の生産なかりしが、大正十三年度より水稻代用作として蘭の栽培を研究し、其收支關係も相當有望なるを認められ、更に之を疊表に織らしめし結果、亦良好にして其年産額も漸次増加の見込である。度會郡は大正十二年縣の副業獎勵により創業せられ、現今では創業日淺きも成績良好で、製品は山田方面に販賣せられて居る。

生産者 鈴鹿郡關町  
度會郡濱郷村

鈴木準一  
福田春吉

◎菅笠 年産額 五萬三千七百二十圓

多氣郡の特産たる菅笠製造の起原は、大化の昔美濃の國縣主郡部乙淨摩呂と云ふ人、菅笠製造の達人工女を神宮に献し、其縫工場を明星村有爾の里に置き、調進の命ある毎に縫工場を祓ひ清齊して御料の御笠御蓑等を調進をしたものであつて、その後此業を有爾の里人に傳へ、有爾の里人が謹製せるものを供進するを例としてゐた、其後神供の例は廢止せられ、日用品として需要も多いので、農閑期の女子副業とし明星村内一般に製造に従事するに至つたものである。

生産者 多氣郡明星村

奥田周次郎

◎叭 年産額 十八萬六千六百十六圓

從來阿山郡府中、河合、西柘植、壬生野、東柘植、山田の諸村地方に主として生産せしが、近時玉瀧、鞆田、三田村地方にも漸次生産を見るに至つた、殊に大正六年右村を區域とする伊賀菴同業組合設立以來、益々製品の改良と、販路の擴張を圖り年と共に其の生産を増加して居る、主なる仕向地は大阪、名古屋、静岡、北越地方で、移出額亦年々増加の傾向にある。

生産者 阿山郡府中村

伊賀菴同業組合

◎皆川菴 年産額 十四萬四千九百九圓

鈴鹿郡で皆川菴の使用を奨励すべく、香川縣から該機二臺を十四年購入使用せしめた處忽ち熟練し、需要家から歡迎さるゝに至り、將來之が生産を増加の傾向である。販路は地方養蠶家に直接販賣をして居る。名賀郡は大正二年頃から箕曲村、錦生村に行はれ、漸次今日に至つたものである。販路は縣内の需要を充すのみである。

生産者 鈴鹿郡深伊澤村

太田貢

名賀郡箕曲村

夏秋喜一郎

名賀郡錦生村

協本文次

◎菴 年産額 三十五萬一千八百三十二圓

安濃郡は明治二十四年頃より農家の副業として藁細工品(主として菴、繩、呷)の製作を

營み、其製品は名古屋及縣内へ共同販賣を行つて居る。從來阿山郡の主産地は府中、河合、西柘植、壬生野、東柘植、山田の諸村であつたが、近時玉瀧、鞆田、三田村地方に漸次生産を見るに至り、殊に大正六年伊賀菴、呷同業組合設立以來、益々製品の改良と販路の擴張に依つて、年と共に其の生産を増加しつゝある、主なる仕向地は大阪、名古屋、静岡、北越地方である。從來員辨郡稻部村を中心に附近數ヶ村に於て明治初年頃から製造せしも、唯自給自足を圖るのみなりしが、明治十年頃より漸次製造戸數を増加し、明治三十九年頃其の需用の増加と共に、製造戸數も激増し、現在年々十八萬枚以上を生産するに至つた。最近の販路は愛知、岐阜及大阪方面市場等である。

生産者 安濃郡安東村

中跡部農家組合

阿山郡府中村

伊賀菴同業組合

員辨郡神田村

岩田平太郎

◎繩 年産額 三十萬六千百十七圓

鈴鹿郡の繩は明治四十二年頃は皆手紬みなりしが、其後機械の使用を奨励の結果、全部機械製品のみとなり、其産額も増加し、大正十三年からは之に加工して再製繩として、販賣することを奨励せし結果、郡内生産繩の過半數は再製繩となし、京阪地方並に名古屋、瀬戸方面に販賣せられて居る。河藝郡の繩は大正元年頃迄は農家各自必要

に應じ生産し、其剰餘は地方の仲買人に販賣せしもに其製品は不統一で市價も又安價なりしも、其後副業督勵の結果、製繩機を各戸に利用せしめ製品の向上を圖り、更に生産せし繩は再製仕上器に依り一層優良品を作るに努めし結果、名古屋地方及關西方面に販路を見るに至つた。一志郡の繩は太古から一般農業者の營む副業に屬し、概ね手揉で最近製繩機の普及を奨勵の結果、大正五、六年頃から之が機械を利用するもの多きを加へ、組合は團體、個人等により機械繩の生産頓に増加し今日に及んで居る。

生産者 鈴鹿郡川崎村

同 龜山町

河藝郡黒田村

同

一志郡中川村

川崎製繩組合  
郡製繩組合

南黒田信用購買販賣組合

黒田信用購買販賣組合

中西齊兵衛

◎伊勢表 年産額 四十六萬九千六百七十九圓

伊勢表は寛政年間に初まり紙巻鼻緒を附し、東京、名古屋方面へ賣り初めしは文化年間で、麻の組繩を附して現今の所謂麻裏草履として賣出す様になつたのは天保年間に初まつたと言ひ傳へられて居る、而して文化年間は産額僅少自村生産の原料に依る分のみであつたのが、天保年間に至り其産額益々旺盛となつた、爾來全國一般國民の履物用として歡迎せられ、年々需要の増大と營業者の數をも増加し、組合も組織せられ、其後同業組合法設定せられ、明治四十年三月六日農商務大臣の認可を得て茲に同業組合法に依る組合を設置したもので、爾來約二十年の年月を経るに此間組合の發展は遅遅として振はざりしも、組合員の反省によりて漸く今日の狀況を持續するに至つたのである。

生産者

伊勢表同業組合

◎蘭 綱 年産額 二萬五千四百二十四圓

鈴鹿郡の蘭蠶綱は養蠶の勃興に伴ひ、農村の副業として有利のもの認められ、大正五年頃高津瀬村並に龜山方面に多數生産さるゝに至り、漸次各町村に及び逐年増加の趨勢である、主として縣下各地に販賣され年産額八萬四千枚である。阿山郡の農家の副業として古くから自宅製造をなす者相當あれども、優品の製出を以て知られて居る。名賀郡は明治三十七八年以來自家用の製作を始めとし、漸次名張町、箕曲村、錦生村を中心とし販賣用を製作するに至つた、販路は奈良縣及縣内である。

生産者 鈴鹿郡龜山町

同 高津瀬村

阿山郡上野町

上田留一

大籾とみ

中堀乙次郎

名賀郡名張町  
同 箕曲村

萩森通之助  
生悦住光郎

◎揉皮及皮鼻緒 年産額 四十九萬二千四百四十圓

桑名郡深谷村に於て生産するもので、約三十年前に創始せられ、同村下深谷部の一部は全戸之に従事し、之を原料として主として鼻緒を製造し、最近は東京、名古屋、大阪に仕向けられ、漸次生産の増大な販路を擴張せらるゝに至つた。

生産者 桑名郡深谷村

佐久間惣助

同

杉野治平

同

佐久間捨松

同

酒井桂藏

◎椎茸 年産額 八萬五千五百三十七圓

飯南郡の椎茸は二百有餘年前、正治年間駿河及遠江の住人(名不詳)相津(粥見村大字向粥見)に製法を傳へしを始めとし、廣く飯南、多氣、度會の各郡山間部から材料を集め栽培するに至つたもので、現在仕向地は臺灣、大阪、滋賀、長野、石川の諸府縣である。多氣郡は従來山間部に於て之れが栽培をなせしもので、其の盛衰に消長はあつたが、近年に至り之れが生産額も増加し、其の産額年四、五萬圓となつた、主として地

方及關西各都市へ販賣されて居る。

生産者 飯南郡粥見村

林眞一

同

林七平

同

大西政雄

多氣郡大杉谷村

今西音次郎

◎木炭 年産額 三十萬五千八百五十七圓

一志郡に於ける製炭の起原は、古く鎌倉時代の末であつた、往昔は製品を津及久居町に搬出し、他は單に自家用に止まりしが、交通の便が開けるに従つて農閑製炭に従事するもの多く、山間地方も木炭の産出を見るに至つた、之を搬出販賣するに及んで、遂次進歩の跡を認め、當局の適切な指導に基いて改良を加へ來り、然して他府縣への移出激増し、大正十四年一月一日一志郡木炭同業組合の創立せらるゝや頓に其聲價を高め、現在製炭に従事するもの千餘戸、特に黒炭は其技秀で其實用的なるは他に誇とするところである。飯南郡では大正五年九月木炭同業組合を創立し、現在組合員數一千十人、製品検査の勵行製炭に關する傳習及講話品評會の開催、先進地の視察等に依つて、木炭品種の改善統一及販路擴張に努力して今日に至つたのである。多氣郡に於ける山間部は往時から製造に従事しつゝあつて、近年交通の便が開けしかば産額も増

加し、(此の産額年三四十萬圓)主として地方及名古屋方面へ販賣せられて居る。從來度會郡の製品粗悪なりしも、大正九年木炭同業組合を組織以來、製品に改良を加へ現今では四海に賞賛さるゝ處となつた、販路は名古屋方面である。

生 産 者 一志郡八幡町

山 内 文 三 郎

飯南郡柿野町

飯南郡木炭同業組合

多氣郡五ヶ谷村

高 橋 治 平

度會郡中川村

東 谷 龜 吉

◎海 苔 年産額 七十三萬二千六百九十二圓

桑名郡の水産の随一で、數年前から増殖を圖りし結果、産額頓に増加し來り、赤須賀城南、木曾岬、伊會島、大島又は漁業組合に於ては濱建、製品、検査等に意を注いだので、最近は淺草海苔に匹敵する製品を出し、販路又擴大せられ全國有數の産地と知らるゝに至つた。

生 産 者 桑名郡木曾岬村

木曾岬漁業組合

◎布 糊 年産額 四十六萬一千六百四十三圓

多氣郡は從來大淀町で製造販賣せしも、該品の需要増加に伴ひ、明治二十五年伊勢布糊製造組合を組織し、大正八年組織を變更し、伊勢布糊株式會社を組織し、爾來今日

に及び全國各地に販賣せらるゝに至つた。度會郡は明治四十年頃の創始で獎勵の結果、現今では生産原料不足の爲め九州方面から之を蒐集して居る、販路は主として京都、岐阜方面なるも各所に販賣して居る。

生 産 者 多氣郡大淀町

伊勢布糊株式會社

度會郡二見町

若 松 德 平

◎貝細工 年産額 三萬五千八百三十一圓

宇治山田市は明治貳拾年頃より科學の進歩に伴ひ技術向上し、各種貝類に加工し現今に至つた、其の初め販路は内地各遊覽地方面に移出せしも、近年に至つて朝鮮、南洋方面にも其の販路を有するに至つた。

生 産 者 宇治山田市今在家町

德井 利左衛門

◎麻織物 年産額 八萬五千九百七十圓

名賀郡では百數十年前から花垣村の一部に行はれ、其他隣接奈良縣と互に相往來し彼の斯業の有利なるを聞き之が傳習を受け、爾來就業者増加す、從來多くは無地のものゝみなりしが、近時原料並に染色の方法に改良を加へ、花垣麻布副業組合を設け優良なる縞物を産出するに至つた、販路は大阪、奈良、京都地方である。

生 産 者 名賀郡花垣村

麻布副業組合

◎木綿織 年産額 二千五百三十八萬九千六百九十七圓  
河藝郡一身田町及榮村の各一部に生産せしが、副業奨励の結果、南部地方に大量生産を見るに至り、品質も先進地方に比し遜色を認めず、大阪、京都、東京、名古屋方面に販路を有するに至つた。

生産者 河藝郡一身田町 森川市兵衛  
同 榮村 新田孫六

◎和紙 年産額 五十三萬七千六百六十九圓  
飯南郡では長紙形のもは文政の頃から、美濃判紙形は大正元年頃より創始し、今日に及べるものにして、製品は縣下松坂町へ仕向け居たのが、最近に至り東京方面にも販路を有するに至つた。名賀郡の製紙業は維新前より行はれし農家の副業で、明治十六年以前は楮を以て傘紙障子紙を製造せしが、其後藁反古を以て半紙、塵紙の製造を創むるに至つてより需要頓に加はり、成績亦良好、就業者逐年増加し、販路は奈良縣、滋賀縣、大阪府及縣内である。

生産者 鈴南郡柿野町 中出兵之助  
同 名賀郡瀧川村 佐々木四郎  
山下宗次

名賀郡瀧川村 大西力松  
同 箕曲村 富永音松

◎傘 年産額 百五十三萬八千六百七十八圓  
阿山郡は主として上野町にて生産し、年々産額百萬本に垂とし、河合村、花の木村、中瀬村、城南村等にも産額を有す、近時之が改良發達に努めしが、大正六年九月伊賀傘同業組合を設立せしめ、検査員を置きて粗製濫造を防止し、製品の改良に意を用ひし結果、其の需用は増加するに至つた、販路は主として大阪、京都地方及滋賀縣等にして堅牢と價格の低廉とを以て伊賀傘の名は市場に高い。桑名郡は桑名町、益生村を中心に製造せられ、原料の撰擇と製造の丁寧とを以て誇り、岐阜傘を凌駕して、販路大いに擴張し、縣内は勿論岐阜縣地方に仕向けらるに至つた。宇治山田市に於て目下發展せる山田傘は其の初め舊師職大官の下役内職に製造したるを以て嚆矢とし、明治五年頃有志發起の下に授産會社を設立し、大に殖産興業を畫つた時から次第に製造戸數を増加し、亞いで明治參拾貳年頃よりは長足の進歩をなし、大正九年重要物産同業組合法に依る同業組合を設置し、最近の年産額和傘五十萬圓に達した。

生産者 阿山郡上野町 山本竹次郎  
同 岡島新治郎



桑名郡矢田町  
宇治山田市

大山清吉  
山田傘同業組合

◎傘 骨 年産額 三十一萬七千二百九十四圓

主なる生産地は阿山郡城南村にして、雨傘の中心たる上野町に接続し、伊賀傘の製産増加に伴ひ、近時著しく生産増加し、販路は上野町を主として居る。宇治山田市の傘骨は明治參拾貳年頃より長足の進歩をなし、大正九年重要物産同業組合法に依る同業組合を設置し、最近年産額貳拾萬圓に達するに至つた。

生産者 阿山郡城南村  
宇治山田市

福徳初次郎  
山田傘同業組合

◎箸 年産額 百十二萬八千三百四十八圓

宇治山田市の竹箸は其の沿革古く、特に其の産額著名となつたのは明治初年にして、神宮奉仕者家庭内職として始まり、明治二十五年頃より他府縣に移出して居たが、主として愛知、奈良、和歌山地方で、最近東北地方、關東地方へも移出するに至つた。

生産者 宇治山田市岩淵町  
同 大世古町

澤田隆次郎  
林勝藏

◎籠 類 年産額 二十三萬六千七百七十三圓

從來製作者としては微々たりしが、大正七年阿山郡は上野町に於て竹製品傳習會を開催し、之れが普及に努めし結果、近時は相當生産を見つゝあり、主なる販路は大阪、京都地方である。多賀郡は明治八年三月美濃波多村にて創めて竹細工製造に着手せしが、當時の製造額は僅少に過ぎざりしが、明治十五年頃より大阪地方より需要頓に加はり、同村及薦原村を中心とし、爾來之が製造法の傳習を受け就業者爲に増加し、漸次隣接村に及ぼし遂に今日に至つた、販路は主として縣内及奈良縣、大阪府地方である。津市は明治二十年頃の創始にして、煤色竹の着色法に苦心研究をなし、其製作するもの雅致あり、津市美術製品の一として推賞せられて居る。

生産者 阿山郡上野町  
名賀郡薦原村  
同

西澤政吉  
松生藤太郎  
松生由藏  
加藤々昇齋

◎刺 繡 年産額 七千百圓

京都に於て習得し來り、明治三十五年頃より津市に創始せられしもので、爾來市内の婦女子に之れを教授し、製品は主として京都に販賣せられて居る。

生産者 津市丸ノ内本町

大野隆平

◎羽織紐 年産額 四萬二千四百圓  
 名賀郡の羽織紐は、明治三十七年頃より始めて種生村に於て製し、他より原料の供給を受け單に工質のみにて製作し、漸次見習職工を募集して盛に行はれたものであるが中途物價の變動により一時中止の姿となつた、然るに近時之れを回復し今日の盛況を見るに至つたものである。販路は大阪、京都、東京、奈良地方である。

生産者 多賀郡美濃波多村 中内源市

◎楊子 年産額 四萬三千二百十九圓  
 四日市の揚子は、明治四十年頃は其の業甚だ振はなかつたが、其頃より漸次生産の増加を見、加ふるに販路擴張し縣下及愛知縣に亘り大凡貳萬圓位であつたものが、獎勵の結果、大正十年頃より静岡縣及東京方面に販路を擴張すると共に、其産額頓に増大し、四萬圓以上を算するに至つた、目今では其販路は全國に亘つて居る。

生産者 四日市々中町 澤下鐵次郎

◎造花 年産額 四萬五千九百三十七圓  
 宇治山田市の造花は、古來より其の製造を見しも、最近に至り家庭副業獎勵の結果、大正十年講習會を開催し全市に亘り獎勵し、移出をなす程度の製造をなすに至つた。

生産者 宇治山田市一志久保町 出口齋吉



**伊勢業全組合**

問屋業者

松	中	棚	佐	木	中	朝	柏
井	川	橋	野	村	村	井	原
信	己	仲	梅	初	忠	喜	權
次	之	次	吉	次	次	代	右
郎	助	郎		郎	郎	次	衛
							門
							津
							市
							愛
							宕
							町
							同
							相
							生
							町
							同
							安
							濃
							郡
							櫛
							形
							村
							同
							一
							志
							郡
							川
							合
							村
							同
							同
							郡
							戸
							木
							村
							同
							飯
							南
							郡
							松
							坂
							町

製茶共同販賣

三重縣鈴鹿製茶市場

關西本線加佐登驛前

電話 神戸 七三番

振替名古屋三三〇八二番

三重縣製

茶ノ販賣幹

旋ヲスル唯一

ノ機關デアリマ

ス、兼テ實物宣傳ノ

爲ニ小賣ヲモ致シマス

事務所 鈴鹿郡役所



ヲ利用シテ下サイ

郡内副業製繩組合

ノ統一機關ニシテ

取引上絶対責任ヲ

負フ

三重縣鈴鹿郡龜山町

鈴鹿郡製繩組合

電話龜山四番

滋賀縣

◎玩具 年産額 九千五百萬圓

大津市及栗太郡を主として、縣下各地に製産せられ、縣内各名勝地の土産品である、東京、京都、大阪等に販路を有し、更に優秀なものは海外に輸出するやうになつた。

生産者 大津市材木町

栗太郡草津町

大津市鍵屋町

甲賀郡水口町

中村 松次郎

加藤 甲二

井上 眞一郎

中田 由松

◎竹製品 年産額 五十九萬圓

縣下各地方に製産せられ、扇骨、籠類、蠶座、箕、漁具、熊手、竹箒、團扇骨、傘骨、竹根鞭、洋杖等種類多く全國各地に販賣せられて居る。

生産者 栗太郡草津町

甲賀郡下田村

同

蒲生郡市邊村

瀨川 忠治郎

竹笠生産組合

上西 作五郎

竹製品業者聯合會

神崎郡八幡村  
野洲郡兵主村  
滋賀郡阪本村  
高島郡安曇村

西村 藤太郎  
中島 清吉  
山本 善三郎  
近江扇工業株式會社  
寺井 直八

同  
神崎郡八日市町

野矢 友七郎

◎葎製品 年産額 一萬三百圓

縣下蒲生郡島村、宇津呂村及八幡町を主産地として、文献に徴するものなきも、古くから之を行つて居る。仕向先は京都、東京、大阪及縣内である。

生産者 大津市太間町 笹池 徳治郎

◎干瓢 年産額 六萬圓

縣下に於て蔬菜加工中の主なるもので、古來水口干瓢とて知られ、産地は甲賀郡を主として蒲生、野洲、愛知、栗太郡等で、京都、大阪及縣内に販賣せられて居る。

生産者 栗田郡葉山村 太田 太左衛門

同 野洲郡三上村 三上 長治郎  
南井 定七

同

菊井 重吉

◎木製品

木製品の主なるものは指物、下駄、珠數、轆轤細工、白齒、木籠、荷札、木箸、糲摺白、搗臼、桶、樽、樽栓、洋傘柄、附木其他種々あるも、各地特色を異にす、農家の副業として古くより行はれ就中坂田郡、犬上郡の指物は技巧精巧にして名高く、蒲生郡の珠數、滋賀郡の轆轤細工等何れも名産品である。

生産者

衛生割箸 甲賀郡宮村

田中 宗治郎

兩口箸 同 山内村

松岡 政吉

電柱椀木 高島郡朽木村

上田 嘉藏

木籠 伊香郡丹生村

細川 榮治

金盛繪本立 大津市材木町

中村 松次郎

外敷種及種立 甲賀郡水口町

中田 岩松

◎籐及蔓製品 年産額 五萬圓

縣下の製品の種類は蔓バスケット、蔓土瓶敷、籐椅子、下駄表にして、主として甲賀郡水口町、犬上郡河瀬村及大津市等より産出す、而して水口町の籐製品は天文五年頃